

授 業 概 要

科目名	総合人間学	担当者	百合草 禎二 田中 悦子	年次	1	単 位 時 間	20時間 ／1単位	
学 修 内 容	看護を必要とする人々は人間である。その人間について、様々な視点から概観することは、人間の理解を広く深くすることにつながる。そして、それが看護を必要とする人々のすべての営みを総合的にとらえる視点に変換され、目指す看護に奥行きをもたらしてくれると考える。「総合人間学」は、入学後間もない時期に人間についての総合的な学習をする科目である。講義を通して、受講者の人間観の変化を期待するものである。							
到 達 目 標	1. 看護を必要とする人々を広く深く知ることの必要性を認識する。 2. 様々な視点からの人間観を学び、人間への理解を深める。 ①人間存在の意義 ②死ぬ存在としての人間 ③行動する人間 ④生活者としての人間 ⑤ケアする人間 ⑥生きがいをもつ人間 ⑦身体をもつ人間 ※「成長発達する人間」「心をもつ人間」は、他の講師が担当する 3. 自らの人間観を広めかつ深める機会を通し、自分自身を見つめる機会とする。							
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）	
	第1回－ 講義概要、あなたの考える人間とは						本講は、プロジェクト学習の一部を取り入れ、自分の目標を提示し、講義資料等は、ポートフォリオに綴っていただきます。 講義ごとに感想を提出します。感想、講義への参加度を評価として採用します。 ※詳細は初回ガイダンスで説明	
	第2回－<生きがいをもつ存在>としての人間							
	第3回－<身体をもつ存在>としての人間							
	第4回－<こころを持つ存在>としての人間							
	第5回－<いつか死をむかえる存在>としての人間							
	第7回－<行動する存在>としての人間							
	第7回－<行動する存在>としての人間							
	第8回－<生活する存在>としての人間							
	第9回－<ケアする存在>としての人間							
	第10回－ 統合体としての人間							
	※ 第4回・第6回の講義は、百合草講師が担当							
成 績 評 価	・ 方法 レポート、授業への参加度 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。							
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 事前課題 事前課題を提示することが多々あります。1回目以降に随時提示いたします。 ・ 留意点 本講義は、様々な切り口から人間を探求します。人間探求の旅は、自分自身を知ることでもあり、大変興味深くかつスリルに満ちた旅です。つまり、皆さん自らの体験を振り返り、それを教材にして考えることを取り入れていきます。そこから人間を探求してほしいと考えています。実は、人間の本質を知らずし奥深い看護はできないのです。本講義は2人の講師による共同作業で進めていくことになります。それぞれの講義からの人間理解の視点を統合し、最終的には看護に生かしていく皆さんの力に期待します。（田中） 授業とは、一方的な知識の伝達ではありません。教員と学生との対話をとおしての理解(意味)の生成の場であると考えています。従って、皆さんとともに授業を構築していけたらいいなと思います。（百合草）							
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト 特に指定しない。 ・ 必要物品 特になし							
参 考 文 献	① 小田正枝、園山繁樹編集、『総合人間学概論』、ヌーベルヒロカワ、2010.1.1 ② 神谷美恵子、『生きがいについて』 みすず書房 ③ ミルトン・メイヤロフ、『ケアの本質-生きることの意味-』、ゆみる出版、1993 ④ 浜渦辰二編集、『ケアの人間学入門』、知泉書館、2005.11 ⑤ 小林直樹編、『総合人間学の試み～新しい人間学に向けて～』、学文社、2006 ⑥ 日本医学教育学会編、『人間学入門～医療のプロをめざすあなたに～』、南山堂、2009 ⑦ 日野原重明、『いのちの使い方』、小学館、2012.10							

授 業 概 要

科目名	コミュニケーション論	担当者	上藤 美紀代	年次	1	単 位 時 間	15時間 ／1単位	
学 修 内 容	人間関係というものは、私たちの生活には不可欠なごく日常的な現象であるが、よりよい人間関係を築いていくために、特に医療者としては、コミュニケーションスキルは非常に重要な技術となる。人間関係を築くうえで必要な知識や技術、心構え(思いやり)を、主に話し方(声の出し方や遣い方)と聴き方の演習を通して習得する。「コミュニケーション」とは何かも考えていきたい。							
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係を築いていくために必要な知識や技術、心構えを身に付ける。 ・コミュニケーション能力を向上させ、人との関わりに自信を持つ。 ・医療者(対人援助職)として、「人間関係」について考察し、実践していく力を養う。 							
授 業 計 画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)	
第1回	オリエンテーション(ヴォイスセラピーについて。コミュニケーションにおける「声」の重要性)						基本的呼吸法、発声法、滑舌訓練を行う。	
第2回	自分と向き合う(声を出して自分を知る)。						「寿限無」をテキストに読み方(話し方)を通して自己分析を行う。	
第3回	コミュニケーション・スキルの基礎 話すとき						3人で1グループをつくり、お互いの話し方、きき方を観察する = 自分の話し方、きき方。	
第4回	コミュニケーション・スキルの基礎 観る						3人で1グループをつくり、二人の対話を知る。観察することによって自分の観る力を知る。	
第5回	インタビューを通して他者との関わり方を学ぶ(ビデオ撮影)						出席番号順に全員がインタビューとインタビューを受ける立場を体験する。この体験を通して自分の良いところを知り、自身をつなげてもらうと同時に、クラスメイトの良いところを見出し、学ぶようにする。	
第6回	インタビューを通して他者との関わり方を学ぶ(ビデオ撮影)							
第7回	インタビューを通して他者との関わり方を学ぶ(ビデオ撮影)							
第8回	インタビュー体験の振り返り・まとめ及び補足						ビデオを見て、自分の表情や姿勢、しぐさなどを反省し、(コミュニケーション)スキル向上のための課題を見つける。	
成 績 評 価	・方法	筆記試験、課題レポート、授業時のミニレポート、取り組み姿勢、出席状況						
	・基準	本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題							
	・留意点	各回の授業を通し、人間関係を築いていくうえでの自身の課題が見つかると思うが、日常生活や社会生活の中で、その課題の解決あるいは克服する努力を自主的に続けてほしい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	授業時にプリントを配布。						
	・必要物品	筆記用具。						
参 考 文 献	『人間関係づくりトレーニング』 星野 欣生 著 金子書房 『ケア・コミュニケーション Care Communication』 麻生塾ケア・コミュニケーション研究会 編著 荒木登茂子 監修 株式会社 ウィネット							

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ 体を守るしくみ	担当者	後藤 治美	年次	1	間 単 時 位	4/30時間 1単位
学修内容	人体の全身を覆う皮膚・粘膜がどのような構造となっているのか、その役割(機能)について学ぶ。						
到達目標	① 人にとっての皮膚・粘膜の重要性を理解する。 ② 皮膚・粘膜の解剖学的構造を理解する。 ③ 皮膚・粘膜の機能とその仕組みを理解する。						
授業計画	授業テーマ	方法 (形成評価等を含む)					
	1. 外界からの刺激から体を守る「皮膚」・「粘膜」の構造	講義					
	2. 「皮膚」・「粘膜」のもつ働きとその仕組み	講義					
成績評価	・ 方法 筆記試験 形態機能学Ⅲのうち、15点分の配点となります。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 ・ 留意点 <ul style="list-style-type: none"> ① 毎回の講義終了後、所感を記入してもらうことがあります。 ② 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 						
テキスト・必要物品	・ テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・増田敦子 監修: 解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・ 必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ 「身体を支える仕組み・動かす仕組み」	担当者	吉田 五百枝	年次	1	単 時 位 間	8/30時間 1単位
学 修 内 容	運動機能とは、単に身体を動かすことだけでなく生命維持のための心臓や肺、コミュニケーションのための目や口、表情、食物を消化吸収することや排泄の機能も其々の筋肉による運動である。このように人間が生きること、生活することに「運動」は欠かすことができないもので、それを支える骨や筋肉、操っている脳神経などを理解することは人間の活動を理解するための重要な学習である。障がいや疾病によって様々な運動機能が障がいされることは、臨床ではしばしば見られる症状である。この障がいや症状を理解した上看護を実践するために、本来の健康な人間の運動のメカニズムを理解することが基本となる。						
到 達 目 標	1) 骨の構造と形成、仕組みについて理解する。 2) 筋の構造と収縮メカニズムについて理解する。 3) 全身を覆い運動を支える骨格筋の構造と仕組みを理解する。 4) 生命活動や生活動作を支える運動のメカニズムについて理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 骨の仕組みと動きについて						講義
	第2回 筋の構造と働きについて						講義 骨の構造と機能の小テストあり
	第3回 運動のメカニズム(生命動作を支える働き)						講義 筋の構造と機能の小テストあり
	第4回 運動のメカニズム(生命活動を支える働き)						
成 績 評 価	・ 方法 :筆記試験(30%担当) 講義内で実施する小テストは成績には含まれない。 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 事前課題 「骨の構造と名称」「筋の構造と名称」の事前課題資料を使用し学習する。 ・ 留意点 自分の身体を動かしながら学んでほしい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他: 解剖生理学をおもしろく学ぶ サイオ出版						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(10)運動器 医学書院 菱沼典子:看護形態機能学 改訂版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ 呼吸のしくみ	担当者	西川 はるみ	年次	1	間 単 時 位	8/30時間 ／1単位
学修内容	呼吸は私たちが起きているときも寝ているときも意識することなく行われている。しかし、呼吸は生きていく上で欠くことのできない生命活動である。日常生活を送るために不可欠な呼吸について、どのような役割を担っているのか、呼吸のしくみ、働きを学んでいく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 人にとっての呼吸の大切さがわかる。 ② 呼吸に関わる器官の構造と機能を理解する。 ③ 外呼吸と内呼吸のしくみを理解する。 ④ 酸塩基平衡の調節における呼吸の役割を理解する。 ⑤ 呼吸運動を調節しているしくみを理解し、健康な呼吸を維持していくためのケアを考える。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	呼吸の意義・「息をすう・はく」ための器官の構造		講義			
	第2回	「息をすう・はく」ための器官の機能 呼吸器官の周囲の構造と機能		講義			
	第3回	肺におけるガス交換(外呼吸)細胞におけるガス交換(内呼吸) 呼吸における酸・塩基の調節		講義			
	第4回	呼吸運動 呼吸の調節 健康な呼吸を維持していくためのケア		講義			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 形態機能学Ⅲのうち、20点の配点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ① 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 ② 毎回の講義終了後に、復習プリントを提出してもらうことがあります。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・増田敦子 監修：解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2)呼吸器 医学書院 菱沼典子著「看護形態機能学 生活行動からみるからだ」日本看護協会出版会 ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版 						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ 「咀嚼と嚥下のしくみ」	担当者	寺岡 智子	年次	1	時単 間位	4/30時間 1単位
学 修 内 容	人間にとって「食べる」ことは、生命の維持や活動していくために必要不可欠なエネルギー源を得ることであり、日常生活行動のひとつである。「食べる」という過程は、食を感じ、食物を口に入れ、食物を噛み砕いて飲み込む。そしてからだの中で消化・吸収するということが行われる。この単元で学ぶ「咀嚼と嚥下のしくみ」は、この食行動における過程のひとつであり、食物を細かく砕き、唾液とよく混合し、食塊を咽頭、食道を経て胃に送り込むことであることを学ぶ。						
到 達 目 標	咀嚼・嚥下が人間にとって必要不可欠である「食べる」、そして消化・吸収へのつながりにおいてどのような機能を担っているかを学んでほしい。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
第1回 講義	咀嚼・嚥下に至るまでの過程について						
	<ul style="list-style-type: none"> ・食欲とは ・食行動について 食物を噛み砕き(咀嚼)、味わうしくみ						
第2回 講義	飲み込む(嚥下)しくみ						
	消化・吸収へのつながりについて						
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(15点分) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 ・自分自身のからだについて興味を持ち、普段あまり意識することなく行っている「食べる」という行動を意識して学んでいきましょう。 ・授業後は必ず、復習を行い知識を理解していきましょう。 						
テ キ ス ト	<ul style="list-style-type: none"> ・坂井建雄他:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 ・増田敦子他:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ 「尿を生成するしくみ」	担当者	孕石 美絵 福田 健	年次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	私達は毎日排泄しない日はない。これは体内で産生される老廃物や過剰な電解質を水に、溶解して腎臓が速やかに体外に排泄しているためである。尿を生成することにより、循環する血液の量とその科学的組織は一定に保たれる。本単元では、生命を維持していく上で必要不可欠な体液の恒常性(ホメオスタシス)を保つ生理機能である尿を生成するしくみと排尿するしくみについて学んでいく。排尿するしくみについては自己の体験をふまえ、尿意を感じ、トイレに行くという一連の排泄行動を含めて学んでいく。						
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 蓄尿、排尿のメカニズムがわかる。 (2) 日常生活での自己の正常な排尿行動を意識することで異常がわかる。 (3) 尿量調節のメカニズムがわかる (糸球体濾過量の調節/尿の濃縮のしくみ) (4) 尿濃縮調整作用、体液量を調節する内分泌機能を理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
第1回	尿はどのように排泄されるのか 蓄尿、排尿のしくみ 尿の通り道/尿意とがまん/尿を出す						講義
第2回	尿は何故つくられるのか (腎臓の構造と機能) 糸球体と尿細管の組織構造とそのメカニズム (濾過 再吸収 分泌)						講義
第3回	体液量・血圧を調整する内分泌機能 (レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系・バソプレッシン)						講義
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 ・基準 形態機能学Ⅲのうち20点分の配点とする 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・留意点 積極的な授業参加を要望します。普段の自分の身体や生活行動と排尿の仕組みを結びつけていくとわかりやすいと思います興味をもって授業に臨みましょう。 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 坂井建雄他:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> 菱沼典子:看護形態機能学 改訂版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版社 阿部信一ら:系統看護学講座 専門⑫成人看護学(8) 腎・泌尿器 医学書院 林正健二ら:解剖生理学 ナーシンググラフィカ メディカ出版 藤崎 郁 著:系統看護学講座 専門3 基礎看護学(3)基礎看護技術Ⅱ 医学書院 						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ 「外部の情報を取り入れる」	担当者	竹田 直子	年次	1	時間 単位	8/30時間 1単位
学修内容	<p>私たちは、常に外部環境からの刺激をとらえ、適切な反応をすることによって危険から身を守ったり、よりよく生きるために行動しています。この外部の情報を取り入れているのが感覚受容器です。感覚受容器には特殊感覚器でとらえたアナログ情報をデジタル情報に変換する変換機としての機能があります。その感覚器がとらえた情報を神経細胞が正確に脳や脊髄に伝えることによって人はより良く生きていくことができるのです。</p> <p>この単元では外部の情報を取り入れる感覚受容器としての視覚・聴覚・嗅覚・味覚・痛みの仕組みとその機能を学習します。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚受容器の種類・しくみを理解する。 2. 感覚受容器の機能や特徴を理解する。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
第1回	眼の仕組みと視覚の機能 なぜ、光や色を感じることができるのか？						講義
第2回	耳の仕組みと聴覚・平衡覚の機能 なぜ、音を聞き分けることができるのか なぜ、遊園地のコーヒーカップに乗った時平衡感覚が保てるのか						講義・確認テスト
第3回	味覚器の仕組みと味覚の機能、嗅覚器の仕組みと機能 なぜ、味覚と嗅覚は生きていくうえで大切なのか？						講義・確認テスト
第4回	痛みの分類、疼痛のメカニズム 痛みはは私たちに何を教えてくれるのか？						講義・確認テスト
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(25点分) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 解剖学的な部位、名称、生理機能は、課題プリントを使って予習(提出あり) 入学前プログラムでも予習できる ・留意点 自分のからだや普段の生活行動に置き換えて考えると学びやすい 毎時間の最初に、前回分の確認テストを行うので、復習して臨む 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 坂井建雄:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 増田敦子:解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品 第1回・第3回 手鏡 						
参考文献	成人看護学[7]脳・神経疾患患者の看護 医学書院 成人看護学[12]皮膚患者の看護 医学書院 成人看護学[13]眼疾患患者の看護 医学書院 成人看護学[14]耳鼻咽喉疾患患者の看護 医学書院 菱沼典子:看護形態機能学 改訂版 生活機能から見るからだ 日本看護協会出版会 読んでわかる解剖生理学 竹内修二 医学教育出版社						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ 情報を判断し伝達する	担当者	吉田 五百枝	年次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	人は外部環境からの刺激をとらえ、適切な反応をして身体の安定を図っている。同時に身体の内部でも刻々と変化する内部環境の状態をとらえ、その変化に反応して恒常性を維持している。体内の環境を一定に保つためには変化をキャッチするしくみ(受容器)と、それに反応するしくみ(効果器)が必要であり、この受容器と効果器をつなぐ通信ネットワークが神経系の役目である。この講義では、人が情報を得て判断し伝えるための機能について学習する。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人が情報を得て判断し伝えるための機能を理解する。 2. 神経系の全体像をとらえ、中枢神経系・末梢神経系の役割を理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	1. 神経系の全体像をとらえる						講義
	2. 中枢神経系・末梢神経系の役割						講義
	3. 神経系の障害による症状と生活への影響						講義
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 形態機能学Ⅳのうち、20点分の配点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・坂井建雄他 : 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・増田敦子 監修 : 解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版. ・香春知永他 : 系統看護学講座 専門基礎分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論, 医学書院. ・必要物品 						
参 考 文 献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡庭豊: 病気がみえる 脳神経 第1版, メディックメディア. ・熊谷たまき他監修: フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メディックメディア. ・竹村信彦: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7, 医学書院. 						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ 「話す・考える」	担当者	西川はるみ	年次	1	単 時 位 間	6/30時間 /1単位
学 修 内 容	<p>私たちの体の組織や器官はお互いに協調し、調和を取りながら、発育(成長)や生命活動をしている。そのために、環境の変化やストレスなどに対応して、常に密接に連携し、安定した状態(恒常性:ホメオスタシス)に保つシステムがある。それが、神経系と内分泌系の2つのシステムである。また、神経は①皮膚など、体の末端でキャッチした(情報)を送る、②送られてきた情報を分析、整理、判断し、これに適応した決定を下す、③決定を実行するように(抹消)に伝える、という3つの役割を担っている。この科目では、脳の中の中枢神経の働きとして、「考える」ことと、運動機能としての「話す」しくみについて学び、人の「話す」「考える」メカニズムについて理解を深める。</p>						
到 達 目 標	<p>1)人にとって「考える」とはどういうことか理解できる。 2)人にとって「話す」とはどういうことか理解できる。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法(形成評価等を含む)
	第1回 中枢神経の解剖を知ろう						講義・グループワーク
	第2回 脳の働きを知ろう						講義・グループワーク
	第3回 睡眠と覚醒、話すメカニズム						講義・グループワーク
成 績 評 価	<p>・方法:筆記試験20点の配点(形態機能学Ⅳのうち)</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 授業前に課題提示された場合は取り組んで参加すること ・留意点 形態機能学Ⅳ「外部の情報を取り入れる」「情報を判断し伝達する」との関連性が高いので、つなげながら学習を深めましょう。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 坂井建雄他:系統看護講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学, 医学書院 増田敦子著:解剖生理を面白く学ぶ, サイオ出版</p>						
参 考 文 献	<p>菱沼典子著:看護形態機能学 改訂版 生活行動からみるからさ, 日本看護協会出版会 長谷川泰弘他:日本一カンタン・わかりやすい 脳神経の解剖&疾患ノート 松村譲児:イラストでまなぶ解剖学 田中越郎:イラストでまなぶ生理学</p>						

授 業 概 要

科目名	形態機能Ⅳ 「子孫を残す」	担当者	増田 瑞枝	年次	1	単 時 位 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	<p>子孫を残すことは生物が生物たるゆえんである。人間は有性生殖で、男性と女性の2つの性により子孫を残していく。子孫を残すことは人間の本能的な欲求であり、子孫を残すことが続く限り生命は受け継がれていく。また、人間が子どもを産むのは生物として遺伝子を残すという本能だけでなく、家族を迎えるという社会的存在としての意味もあり、極めてプライベートな営みでもある。</p> <p>この單元では、子孫を残すために備わった性の違いを知り、性に関わる器官の構造と機能を学習する。</p>						
到 達 目 標	<p>(1) 男性と女性が子孫を残すための器官の構造と機能を理解する。 (2) 胎児が育つ過程を理解する。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
第1回	性別の違い ・遺伝子による違い ・ホルモンによる違い 男性のからだ ・構造(精巣・性管・精嚢・前立腺・陰茎) ・機能(精子を作る・精子を送る・ホルモンを分泌する)						講義 途中の段階で小テストを行います
第1回	女性のからだ(1) ・構造(卵巣・卵管・子宮・膣・外陰) ・機能(卵子を作る・ホルモンを分泌する・性周期)						講義
第1回	女性のからだ(2) ・機能(受精卵を育てる) 胎児期の生殖器の発生						講義
成 績 評 価	・ 方法 筆記試験 取り組み姿勢 ・ 基準						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 留意点 自分の身体を知ることが自分の生き方を考えるうえで大切なことです。 関心を持って学んでいきましょう。 自分で絵や図をプリントに書いて学んでいきます。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト ・酒井健夫他著:系統看護学講座 基礎専門分野 解剖生理学, 医学書院 ・増田敦子監修:解剖生理をおもしろく学ぶ, サイオ出版 ・ 必要物品 ・色鉛筆						
参 考 文 献	・森恵美 他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1]母性看護概論, 医学書院 ・森恵美 他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2]母性看護概論, 医学書院 ・エレイン N. 著:人体の構造と機能, 医学書院						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ こころの機能	担当者	後藤 治美	年次	1	間 単 時 位	4/30時間 1単位
学修内容	「こころ」の構造を解剖学的な視点・精神医学からの視点で捉え、その働きを学ぶ。さらに、こころの働きと身体との関連について学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 「こころ」とは何かについて考えることができる。 ② 解剖学的に、どこが「こころ」の働きをつかさどっているのか、理解する。 ③ 精神医学的視点で「こころ」の構造を理解する。 ④ 「こころ」の働きと身体との関連を理解する。 ⑤ 「こころ」の健康を保つための人に備わる機能を理解する。 						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	1. 「こころ」とは何か？			講義			
	2. 「こころ」と身体の関係			講義			
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験 形態機能Ⅳのうち、15点分の配点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ① 毎回の講義終了後、所感を記入してもらうことがあります。 ② 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・必要物品 						
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学, 医学書院. ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎, 医学書院. 						

授 業 概 要

科目名	病理学	担当者	関 常 司	年次	1	単位 時間	4/15時間 1単位
学修内容	病理学概論について学ぶ。						
到達目標	疾病の概略、用語を理解する。疾病の機序と回復の過程を理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1、2回：講義 ① 病理学とは ② 先天異常と遺伝子異常 ③ 代謝障害 ④ 循環障害						
成績評価	・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 ①受講前に15分間テキストを読むこと。②受講後に5分間ノートを見なおすこと。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院 ・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	病理学	担当者	平松 毅幸	年次	1	単 位 時 間	11/15時間 1単位
学 修 内 容	疾患の成立する仕組みのうち、免疫、炎症、感染症、腫瘍に関して講師が説明します。						
到 達 目 標	1) 疾病の発生機序と回復の過程を理解する。 2) 医学用語の意味を理解し、読み書き出来る。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回: 講義	免疫					
	第2回: 講義	免疫					
	第3回: 講義	炎症・感染症					
	第4回: 講義	感染症					
	第5回: 講義	腫瘍					
	第6回: 講義	腫瘍					
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況、配布プリントの正答率 ・配布プリントを真面目に記入し、提出完了していなければ、筆記試験は受験出来ません。 ・総点数の70%は筆記試験点数。 ・総点数の30%は配布プリントの穴埋め点数。 配布プリントの穴埋めに、漢字間違いがある時や 仮名で置き換えて書いてある時は、間違いとみなします。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点</p> <p>① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。 ② 配布プリントは講義の度に必ず持参すること。忘れても余分はありません。 ③ 配布プリントの空欄の答えを、講義のスライドを見て真面目に記入すること。 各单元(免疫、炎症、感染症、腫瘍)が終了した時に配布プリントは回収し、 採点后、筆記試験の前までには、すべて返却します。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献	シンプル病理学 休み時間の免疫学(第3版)		南江堂 講談社				

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅰ (呼吸器系)	担当者	田村 亨治	年次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	呼吸器系の一般的疾患について学ぶ。						
到 達 目 標	主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義	感染症（インフルエンザ、肺炎、結核など）			教科書の内容に、各種疾患の国内ガイドラインなどの内容を加えて、なるべく新しい知見を紹介する。		
	第2回：講義	気管支喘息、慢性閉塞性疾患、他					
	第3回：講義	間質性肺疾患、脳血栓塞栓症					
成 績 評 価	・方法	筆記試験（配点は評価配分表を参照）					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	受講生への要望：しっかり復習してください。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器			医学書院		
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学			医学書院			

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅰ (呼吸器系)	担当者	太田 伸一郎	年次	1	単 位 時 間	2/30時間 1単位
学 修 内 容	肺がん外科治療について学ぶ。						
到 達 目 標	主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義 肺の解剖、呼吸生理、肺癌の病態、肺癌の外科治療、 内視鏡手術の実際						
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 ・必要物品 						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅰ (呼吸器系)	担当者	広瀬 正秀	年次	1	単 位 時 間	2/30時間 1単位
学 修 内 容	胸部外傷等について学ぶ。						
到 達 目 標	主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義 胸部外傷、気胸、縦隔腫瘍						
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 ・必要物品 						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅰ (循環器系)	担当者	渡邊 明規	年次	1	単 位 時 間	10/30時間 1単位
学修内容	循環器系の解剖・生理、疾患等について学ぶ。						
到達目標	主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1～5回：講義 循環器系の解剖・生理 疾患について ①総論から心不全、症候について ②各論 心肺蘇生について						
成績評価	・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論 I (血液)	担当者	前田 明則	年次	1	単 位 時 間	10/30時間 1単位
学 修 内 容	血液の基礎知識、血液造血器の主要疾患について学ぶ。						
到 達 目 標	主な呼吸機能障害、循環機能障害、造血機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義	血液概論					
	第2回: 講義	赤血球の異常					
	第3回: 講義	白血球の異常、造血器腫瘍①					
	第4回: 講義	造血器腫瘍②					
	第5回: 講義	造血器腫瘍③、出血性疾患					
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	講義はスライドを中心に行います。 あらかじめテキストを読んでから受講して頂くと、さらに理解しやすいと思います。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器				医学書院	
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野		人体の構造と機能 [1] 解剖生理学		医学書院		

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (歯・口腔)	担当者	森 正次	年次	1	単 時 位 間	4/30時間 1単位
学 修 内 容	口腔の基礎・解剖をベースに、代表的な口腔外科的疾患、さらに慢性期病棟やがん治療にも欠かせない口腔ケア、口腔機能管理について学ぶ。						
到 達 目 標	主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義	口腔の基礎、口腔外科的疾患		PC(スライド)及び配布資料			
	第2回: 講義	口腔外科的疾患、口腔ケア(周術期)、口腔機能管理		PC(スライド)及び配布資料			
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	授業は主にPCを利用し、プリントを資料として配布します。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [15] 歯:口腔					医学書院
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学						医学書院

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (消化器系)	担当者	石原 行雄	年次	1	単 位 時 間	8/30時間 1単位
学 修 内 容	消化器疾患及び看護について学ぶ。						
到 達 目 標	主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1・2回: 講義 食道、胃、十二指腸の疾患						
	第3・4回: 講義 腸疾患、腹膜の疾患、ヘルニア、大腸がん						
成 績 評 価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望: 質問をするようにして下さい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (肝疾患・胆道系)	担当者	景岡 正信	年次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	肝疾患・胆道系について看護の基本を考えながら学ぶ。						
到 達 目 標	主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1～3回:講義	肝・胆・膵の病態と治療のうち、肝疾患・胆道系					
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	受講生への要望: 看護の基本を考えながら受講して下さい。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器					医学書院
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学						医学書院

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (膵疾患)	担当者	大島 昭彦	年次	1	単 位 時 間	2/30時間 1単位
学 修 内 容	膵臓の解剖と生理、代表的膵疾患の病態と治療について学ぶ。						
到 達 目 標	主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回:講義	膵臓の解剖、生理、炎症、腫瘍					
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	受講生への要望: 看護とどう結びつくか考えながら受講して下さい。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器					医学書院
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学						医学書院

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (代謝・内分泌)	担当者	坂本 益雄	年次	1	単 位 時 間	10/30時間 1単位	
学 修 内 容	①代謝・内分泌の基礎知識 ②代謝・内分泌疾患(特に糖尿病を中心)について学ぶ。 ③個々の症例検討について学ぶ。							
到 達 目 標	主な消化機能障害(口腔機能疾患、栄養摂取疾患、栄養代謝疾患)、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。							
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)	
	第1回:講義	代謝・内分泌の基礎知識						
	第2回:講義	下垂体・甲状腺疾患						
	第3回:講義	副甲状腺・副腎疾患						
	第4回:講義	糖尿病の基礎知識						
	第5回:講義	糖尿病・症例検討						
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況						
	・基準	本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題							
	・留意点	White Boardを使った講義を少し入れます。配布したプリントへ要点を記入して下さい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝					医学書院	
	・必要物品							
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院							

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅲ (脳・神経系)	担当者	竹原 誠也	年次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	① 神経系の基本構造と生理学的基礎を理解する。 ② 中枢神経系内での情報処理がどのようになされているかを理解する。 ③ 中枢神経系の疾患により、中枢神経の機能がどのように損なわれるのか理解する。 ④ 神経系疾患で、日常臨床でよく出会う病態を理解する。						
到 達 目 標	主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義	神経系の解剖と生理		講義形式			
	第2回: 講義	脳血管障害、脳腫瘍		講義形式			
	第3回: 講義	頭部外傷、脊髄疾患、その他		講義形式			
							講義内での復習を繰り返して、 理解の度合いを上げる。
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題	テキスト(系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経)を予習しておくこと。					
	・留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経		医学書院			
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学		医学書院				

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅲ (自律神経)	担当者	酒井 直樹	年次	1	単 時 位 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	神経内科とはどんな症状かを認め、どんな疾患があるのかを学ぶ。神経内科領域の代表的疾患について理解する。						
到 達 目 標	主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義	神経変性疾患Ⅰ（ALS、SCDなど）					
	第2回：講義	神経変性疾患Ⅱ（パーキンソン病、アルツハイマー型認知症など）					
	第3回：講義	その他の神経疾患（自己免疫性疾患、感染症など）					
成 績 評 価	・方法	筆記試験（配点は評価配分表を参照）、出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	神経系の障害によりどのような症状が認められるのか？ 神経内科の疾患にはどのようなものがあるのか？など、おおまかなイメージを作れるように。 知識の整理はテキストでしておくこと。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経					医学書院
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学						医学書院

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅲ (腎・泌尿器)	担当者	福田 健	年次	1	単 位 時 間	10/30時間 1単位
学 修 内 容	腎・泌尿器系の解剖・生理と主要疾患について学ぶ。						
到 達 目 標	主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回: 講義	腎・泌尿器系の解剖・生理					
	第2回: 講義	腎不全					
	第3回: 講義	腎不全					
	第4回: 講義	尿路腫瘍					
	第5回: 講義	尿路感染症 まとめ					
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	受講生への要望: 遠慮なく質問、ご要望をお寄せください。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [8] 腎・泌尿器					医学書院
	・必要物品						
参 考 文 献		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学					医学書院

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅲ (運動器:骨・筋)	担当者	赤坂 嘉之	年次	1	単 位 時 間	8/30時間 1単位
学 修 内 容	① 筋骨格系の運動機能・基本構造を理解する。 ② 関節運動の理論と実践を学ぶ。						
到 達 目 標	主な脳・神経機能障害、排泄機能障害、運動機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1～4回: 講義 筋骨格系の基本を理解する。 解剖・整理・病理の専門用語を理解し、使いこなせるようになる。 整形外科学、リハビリテーション学の初歩の紹介と演習。						
成 績 評 価	・ 方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 事前課題 ・ 留意点 受講生への要望: 積極的に授業に参加してほしいです。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器 医学書院 ・ 必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 * 必要時、随時用意します。						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (乳房)	担当者	平松 毅幸	年次	1	単 時 位 間	4/30時間 1単位
学 修 内 容	乳腺の解剖・生理学的事項と乳腺疾患(特に、乳癌)について、その病態、診断、治療法について講師が説明します。						
到 達 目 標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。この内、この单元では、乳腺の疾患(特に、乳癌)の発生機序、疫学、治療法を理解し、患者におよその説明が出来るようになる。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回:講義 乳腺の解剖・生理と乳腺の良性疾患						
	第2回:講義 乳がんの診断と治療法						
成 績 評 価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。 ② 乳癌の治療法に関しては、全ての固形癌に当てはまるため、全身療法と局所療法に分けて、各々の意義をしっかりと理解してください。 ③ 病理学の「腫瘍・免疫」等で学んだことを思い出して、今回得た知識を、それに連結するように頭の中で整理してください。 ④ 乳癌患者のつらさを共感して、適切なケアが出来るようになるには、どうすべきか考えて、講義を受けてください。 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (女性生殖器)	担当者	黒田 健治	年次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	① 女性生殖器系(乳房を除く)の解剖生理を理解する。 ② 女性生殖器(乳房を除く)の主な疾患の病態・症状・検査・治療について学ぶ。						
到 達 目 標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義	症状とその病態生理及び婦人科検査					
	第2回: 講義	女性ホルモン周期とその関連疾患					
	第3回: 講義	婦人科良性疾患					
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況、取り組み姿勢					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器					医学書院
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学						医学書院

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (免疫系)	担当者	金本 素子	年次	1	単 時 位 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	免疫の基礎と膠原病、リュウマチ疾患について学ぶ。						
到 達 目 標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ	方法 (形成評価等を含む)					
	第1～3回: 講義 前半: 免疫学総論 後半: 免疫学各論(疾患について)						
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	受講生への要望: この授業を通して、リュウマチ疾患に対しておおまかなイメージと興味を持てるようになることを望みます。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院					
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (感覚器系:眼)	担当者	松永 寛美	年次	1	単 位 時 間	4/30時間 1単位
学 修 内 容	眼科疾患と治療について学ぶ。						
到 達 目 標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1、2回:講義	眼科疾患と治療について					
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	受講生への要望: 自主的に予習・復習することを望みます。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [13] 眼 医学書院					
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 イラスト眼科 渡邊郁緒 著 眼科学 丸尾敏夫ほか 著						医学書院 文光堂 文光堂

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (耳鼻咽喉)	担当者	久保田 賢三	年次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	耳鼻咽喉科領域の検査および疾患の病態・治療法について学ぶ。						
到 達 目 標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ				方法 (形成評価等を含む)		
	第1回: 講義 総論 耳疾患						
	第2回: 講義 鼻疾患						
	第3回: 講義 咽頭および咽頭疾患 まとめ						
成 績 評 価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 図や写真を多く用いるので、目で見ても授業を理解しましょう。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ (皮膚)	担当者	矢田 貝 剛	年次	1	単 位 時 間	4/30時間 1単位
学 修 内 容	皮膚のしくみと皮膚疾患について学ぶ。						
到 達 目 標	主な生体の防御機構と免疫疾患、アレルギーと自己免疫疾患、乳房疾患、女性生殖器疾患、眼科疾患、耳鼻咽喉疾患、皮膚疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回: 講義 皮膚のしくみ、発疹学について						
	第2回: 講義 皮膚疾患について						
成 績 評 価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 受講生への要望: わからないところは質問して下さい。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院 ・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅴ (手術療法)	担当者	高林 直記	年次	1	単 時 位 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	① 手術療法についての知識を得る。 ② 代表的な手術術式、創傷治癒や、術後の一般的な経過についての知識を得る。 ③ 術後合併症についての知識と理解を得る。						
到 達 目 標	人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。 また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回:講義	手術療法とは					
第2回:講義	手術療法の実際						
第3回:講義	術後合併症						
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	受講生への要望: 単に手術というだけでなく、術前管理、手術、術後管理という一連の流れを学んで下さい。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論					医学書院
	・必要物品						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅴ (リハビリテーション療法)	担当者	秋山 弘太 遠藤 みき 佐貫 恵	年次	1	単 位 時 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	<p>【理学療法】</p> <p>① リハビリテーションとは何かを理解する。また、リハビリテーション看護活動が患者に与える影響を理解する。</p> <p>② 理学療法とは何か、評価・治療を通して経験する。</p> <p>【言語療法】</p> <p>言語聴覚療法(リハビリテーション)について学ぶ。</p> <p>【作業療法】</p> <p>作業療法について学ぶ。</p>						
到 達 目 標	<p>人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。</p>						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	<p>【理学療法】</p> <p>第1回: 講義 リハビリテーション概論</p> <p>第2回: 講義・実習 理学療法 ① (評価・測定)</p> <p>第3回: 講義・実技 理学療法 ② (治療)</p> <p>【言語療法】</p> <p>① 嚥下リハビリと小児の言語リハビリ</p> <p>② 聴覚療法と成人の言語リハビリ・高次脳機能障害のリハビリ</p> <p>【作業療法】</p> <p>その人らしい生活の再構築を行うリハビリ</p>						
成 績 評 価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	<p>【理学療法】 第2・3回講義は実技中心にて、服装は動きやすい恰好で。</p> <p>【言語療法】 分からないことは積極的に質問して下さい。</p>					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	成人看護学 D. リハビリテーション患者の看護 [第2版]					氏家幸子 廣川書店
	・必要物品	<p>【理学療法】 動きやすい服装</p> <p>【作業療法】 カーディガン</p>					
参 考 文 献	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院</p> <p>絵でわかる言語障害 毛束 真知子 学研</p>						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅴ (化学療法)	担当者	遠藤 友香	年次	1	単 位 時 間	4/30時間 1単位
学修内容	「がん」と「がん化学療法」について学ぶ。						
到達目標	人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回:講義	がんについての正しい知識					
第2回:講義	がん化学療法の基礎知識						
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事前課題・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 受講生への要望: わからない事があったら、質問をして下さい。 						
テキスト・必要物品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 別巻 がん看護 医学書院 ・必要物品 						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅴ (放射線療法)	担当者	五十嵐 達也 小杉 崇	年次	1	単 位 時 間	4/30時間 1単位
学 修 内 容	放射線医学の基礎と臨床(画像診断、IVR、放射線治療)について学ぶ。						
到 達 目 標	人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回: 講義 放射線診断について						
	第2回: 講義 放射線治療について						
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 ・必要物品 						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅴ (心身医学)	担当者	福島 一成	年次	1	単 位 時 間	4/30時間 1単位
学 修 内 容	心身医学の概論。心と体の関係を概観する。						
到 達 目 標	人間が何らかの疾患を持ったとき、治療方法の種類(手術療法、リハビリテーション療法、化学療法、放射線療法)がわかり、その治療に対して必要な観察力や判断力、実践力を身につける基礎を学ぶ。また、主な心身医学的疾患の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を系統的に学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回:講義 心身医学概論 ① 心身医学とは						
	第2回:講義 心身医学概論 ② 心身症の発症機序と代表的な心身症						
成 績 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 ・留意点 授業は2回とも教室で行う。出欠も成績評価の参考とする。 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト 使用しません。 ・必要物品 						
参 考 文 献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	薬理学	担当者	中島 重紀	年次	1	単 時 位 間	6/30時間 1単位
学 修 内 容	医薬品の作用原理とその影響について基本的知識を習得し、臨床で必要な医薬品の安全な取り扱いについて学ぶ。						
到 達 目 標	医薬品が作用する原理と作用に影響を与える要因を理解する。 医薬品を適正かつ安全に使用するための注意事項を理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：講義	医薬品概論		パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する。			
	第2回：講義	救急救命時に使用する薬 他		パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する。			
	第3回：講義	特に安全管理が必要な医薬品について 他		パワーポイント(スライド)と配布資料を用いて講義する。			
成 績 評 価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 授業前にテキストの該当箇所を読んでおく。 ・留意点 授業後は講義内容を振り返り、重要な語句を整理しておく。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 イメージできる臨床薬理学			メディカ出版 メディカ出版			
参 考 文 献	・必要物品						

授 業 概 要

科目名	薬理学	担当者	石川 智久	年次	1	単 時 位 間	24/30時間 1単位
学 修 内 容	薬理学は、人体における薬物の効果に関する科学研究を行う学問である。総論では、薬の作用や体内動態、からだと薬の反応関係など薬物療法の基礎知識を学ぶ。各論では、各疾患の治療に用いられる医薬品の薬効、体内動態、作用機序、副作用などについて学ぶ。						
到 達 目 標	患者に投与する薬に関する十分な知識と服用の効果を正しく評価できるようになるために、本授業では、薬と生体の両面にわたる、分子レベル、細胞レベル、組織レベル、個体レベルの基礎的な知識をもとに、薬と受容体の反応様式および薬の作用機序についての知識を身につけ、薬がどのようにして疾患に効くのかを理解することを目標とする。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	薬力学総論		講義			
	第2-4回	主な生活習慣病に使用する薬		問題集を使った演習			
	第5回	がん・痛みに使用する薬					
	第6、7回	脳・中枢神経疾患で使用する薬					
	第8回	感染症に使用する薬					
	第9回	アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬					
	第10回	消化器系疾患に作用する薬					
	第11回	その他の症状に使用する薬					
成 績 評 価	・方法	筆記試験（配点は評価配分表を参照）					
	・基準	本校の基準に沿って評価する。					
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題						
	・留意点	授業では、暗記ではなく理解が必要な薬の作用メカニズムを中心に解説する。できる限り授業中に理解するように努め、分からない点は積極的に質問するように。					
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち②	臨床薬理学	メディカ出版			
	・必要物品	イメージできる臨床薬理学		メディカ出版			
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	看護学概論	担当者	伊藤 みどり	年次	1	時間 単位	30時間 1単位
学 修 内 容	<p>看護学概論は、専門分野Ⅰ基礎看護学の土台に位置づけられ、看護学全体の基本的内容を学ぶ科目である。総合人間学での人間理解を土台に、看護の対象である人々を理解し、健康を入口に、その人らしく生きることを支援するという看護の本質を考える科目である。</p> <p>さらに専門分野Ⅱの専門領域や看護の統合分野への発展に向け、看護への関心を高め、看護を俯瞰して捉え看護学の豊かさや奥深さをイメージする機会としたい。</p>						
到 達 目 標	<p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護全般の概念を捉え、看護の社会的位置づけや役割の重要性を認識する。 2. 看護を規定する主要概念について理解し、看護とは何か本質を追究する。 3. 看護の理論とは何かを学び、看護観をもつ必要性を理解する。 4. 看護の先人たちの足跡をたどり、その歴史と発展について学ぶ。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 「私の紹介」 ～一人ひとりを尊重しよう！！～						一人ひとりが「自分」紹介をする。
	第2回 ガイダンス 専門職としての看護 看護師に求められる力と役割						※課題 ミニレポート①
	第3回 看護の使命、ケアリングの心を「マザー・テレサ」から学ぶ						※課題 ミニレポート②
	第4回 保健・医療・福祉における看護の役割						
	第5回 健康の促進と回復の支援						
	第6回 ささまざまな看護理論						特に印象に残った理論家を選び、もっとこのことを知りたいと思ったことを調べる。 ※課題③
	第7回 ナイチンゲールの看護理論・ロイの看護理論に触れる						
	第8回 看護の本質と広がりについて学ぶ						
	第9回 看護倫理について 人間について						
	第10回 看護の歴史 看護の過去～現代そして未来へ ①海外の看護						
	第11回 看護の歴史 看護の過去～現代そして未来へ ②日本の看護						
	第12回・13回・14回						
	ラベルワーク（14回目は発表）						
	第15回 筆記試験 まとめ						※授業の所感を記入し、毎回の授業の振り返りをしていきます。
成 績 評 価	<p>・方法 ミニレポート10点(5点×2回) レポート10点 ラベルワーク参加度5点 筆記試験75点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 授業前に「私の紹介」として、これまでの経験、得意とすること、看護師になるという気持ちなどを、指定の用紙にまとめる。(1分間で発表できる内容で)</p> <p>・留意点 授業の資料、ノートなどをファイルなどにしっかりと整理してください。自分で追加学習をしていき、それもファイルに増やしていきましょう。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト ①宮脇美保子編集：新体系 看護学全書 基礎看護学① 看護学概論，メヂカルフレンド社。 ②フロレンス・ナイチンゲール著 湯楨ます他訳：看護覚え書，現代社。 ③東京医科大学看護専門学校編著：プチナース特別編集版 よくわかる看護者の倫理綱領，照林社。</p> <p>・必要物品 授業の資料やノートはファイルなどでしっかり整理してください。</p>						
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> ①茂野香おる他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1] 看護学概論，医学書院。 ②小田正枝編集：ロイ適応看護理論の理解と実践，医学書院。 ③川島みどり著：きらり看護，医学書院。 ④笹原留似子著：おもかげ復元師の震災絵日記，ポプラ社。 						

授 業 概 要

科目名	看護方法 I 生活援助技術 環境の調整	担当者	木田 文子	年次	1	単 位 時 間	20/30時間 1単位
学 修 内 容	人と環境は密接な関係にあり、環境の善し悪しは健康の保持増進に大きく影響する。患者にとっての病室は、治療・看護を受ける場であるとともに日常生活の場となる。この單元では、人間にとっての環境の意義を考えるとともに、療養生活にある患者の環境とはどのようなものであるかを考え、看護者が行う環境の調整とはどのようにしていくことなのかを学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての環境の意義を理解する。 2. 療養者にとって快適な療養環境を考える。 3. ベッドメイキングの原則を理解し、快適なベッドをつくる。 4. 安全・安楽を考慮した臥床患者のシーツ交換を実施する。 5. 看護者が環境を調整する意義について理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	1. 人間にとっての環境の意義と療養環境						講義
	2. 療養環境のアセスメント						講義
	3. ベッドメイキング						校内実習(A・Bグループに分かれる)
	4. ベッドメイキング						校内実習(A・Bグループに分かれる)
	5. ベッド周りの環境を考える						校内実習(A・Bグループ合同)
	6. 臥床患者のシーツ交換						校内実習(A・Bグループに分かれる)
	7. 臥床患者のシーツ交換						校内実習(A・Bグループに分かれる)
	8. まとめ 看護者が環境を調整する意義						講義
成 績 評 価	・方法 筆記試験 25点 実技試験 25点 本科目は50点満点となります。 ※ 看護方法 I「活動と休息」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 校内実習前に、実施する援助技術についての課題を提示します。 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 校内実習は、事前課題を活用して実施します。 校内実習後には、主体的に練習をしましょう。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・任 和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術, メディックメディア. ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅰ 生活援助技術「活動と休息」	担 当 者	小林 有希子	年 次	1	単 位 時 間	14/30時間 1単位
学 修 内 容	人間は成長と共に生活が自立する。自らの生活や欲求に応じて、自然に体を動かし活動している。活動は意識的にも無意識的にも行われるが、同様に休養や睡眠も必要となる。 しかし、疾病や治療により活動も睡眠も様々な影響を受ける。そして、過度の安静は悪影響にもなる。 本単元では活動と休息を必要に応じてバランスよく安全に提供する援助方法を学ぶ。						
到 達 目 標	学習目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動・休息の基礎的概念を理解する。 2. 姿勢の保持、体位変換、移動の援助の目的と援助方法を理解する。 3. 姿勢の保持、体位変換、移動の基礎的技術を実施する。 4. 活動の減少や不動状態による危険や合併症を理解する。 5. 睡眠の基礎知識とその援助について理解する。 						
授 業 計 画							方法（形成評価等を含む）
第1回	活動休息の意義と基礎知識					講義	
第2回	ボディメカニクスと安楽な体位の保持と変換					講義	
第3回	安楽な体位の保持と体位変換(A/B)					校内実習	
第4回	移乗と移動、移送の基礎知識					講義	
第5回	移乗と移動、移送の援助(A/B)					校内実習	
第6回	講義 不動状態の影響 睡眠とは、睡眠障害とその援助					講義	
第7回	試験・解説						
成 績 評 価	・方法 筆記試験 レポート 実技試験 出席状況						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・留意点 活動と休息は患者さんは勿論、看護する者にとっても自らの安全を守る重要な基礎です。形態機能学の骨格筋の仕組みなども踏まえて学びましょう。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真紀子他監修：看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版，メテックメディア。 ・織田弘美ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕 運動器，医学書院。						
参 考 文 献	・竹尾恵子監修：看護技術プラクティス 第3版，学研メディカル秀潤社。 ・任 和子、秋山智弥編集：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術，医学書院。						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅱ 生活援助技術「食事の援助」	担 当 者	寺岡 智子	年 次	1	単 位 時 間	14/30時間 1単位
学 修 内 容	人間は生きて活動していくために必要なエネルギーを食物として食べ、消化・吸収して体内に取り入れるという過程を経ている(この過程を「栄養」という)。本科目では、人間にとって食べることの意義を理解し、栄養に関する身体的側面の観察の視点、療養における食事とはどのようなものかについて学ぶ。そして、栄養が満たされないことによって起こる身体的・心理的問題、およびその問題に対する基本的看護援助について学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとって食べることの意義を、生理的、心理的、社会的側面から理解する。 2. 食事の援助に必要な栄養の基礎知識、食事摂取の機序を理解する。 3. 対象の栄養状態および食欲、摂取能力のアセスメントの方法を理解する 4. 栄養のニーズを満たすために必要な看護援助を学び、基本的な食事援助ができる。 5. 食物を経口摂取できない状態にある対象の栄養摂取の必要性と方法を学ぶ。 6. 非経口的栄養摂取法である経鼻経管栄養法の具体的な方法と観察を学ぶと共に、そのような方法で栄養摂取をする対象の心理的苦痛を理解できる。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回: 食事の意義と基礎知識 第2回: 栄養と食行動に関するアセスメント 第3回: 基本的な食事援助と摂取・嚥下訓練 第4回: 基本的な食事援助 第5回: 経口摂取ができない人への援助 第6、7回: 経鼻経管栄養法						講義 講義 講義・グループワーク 校内実習(A・B別れて) 講義 校内実習(A・B別れて)
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験 50点 ※看護方法Ⅱ「排泄の援助」と合わせて100点満点になります。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 形態機能学Ⅲ「咀嚼・嚥下のしくみ」での学びを復習しておきましょう。</p> <p>・留意点 校内実習前に実施する看護技術に関して事前課題があります。校内実習はその事前課題を活用しながら行ないますので、必ず事前課題にしっかりと取り組んでから授業に臨みましょう。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト ・任 和子他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ、医学書院。 ・藤本真記子他監修: 看護がみえる Vol1 臨床看護技術、メディックメディア。 ・江口正信著: 検査値早わかりガイド、サイオ出版。</p> <p>・必要物品 ・校内実習ごと、必要物品をお知らせします。</p>						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅱ 生活援助技術「排泄の援助」	担当者	増田 瑞枝	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	排泄は、生命を維持する上で極めて重要な生理機能であり、人間の基本的欲求のひとつである。この科目では、排泄のメカニズムを理解し、日常生活のひとつとして行われている排泄行動を意識しながら排泄に関する観察の視点について考えていく。また、排泄に対して看護者が行う具体的な援助する方法、排泄行動を援助する方法、また排泄困難な状況に対する援助について学ぶ。						
到 達 目 標	(1) 人間の健康生活における排泄の生理的・心理的・社会的意義を理解する。 (2) 基礎的知識として、排泄の機序及び生理的機能を理解する。 (3) 排泄援助に伴う患者の心理・苦痛を理解する。 (4) 排泄障害の様々な段階を知り、適切な援助方法を理解する。 (5) 排泄行動に障害がある人に対する基本的援助技術を理解する。 (6) 安全・安楽を考慮しながら、基本的な床上排泄の援助ができる。 (7) 浣腸・導尿の目的、原理・原則が理解できる。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
第1回	排泄の意義と基礎知識			講義			
第2回	排泄援助の基礎知識			講義			
第3回	症状排泄・排便困難時の看護			講義			
第4回	浣腸の実施と床上排泄の援助			校内実習 (A・Bチームに分かれて)			
第5回	排泄困難時の看護			校内実習 (A・Bチームに分かれて)			
第6・7回	校内実習 一時的導尿の実施						
第8回	試験・解説						
成 績 評 価	・ 方法 筆記試験 ・ 基準 筆記試験 50% 「食事の援助」と合わせて100%です。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・ 留意点 ・事前学習、復習をしっかりと行い、積極的に学ぶ姿勢で授業に臨んでください。 ・校内実習では、身だしなみ・必要物品を整え、事前の準備をきちんと行ってください。 ・基礎知識として、形態機能学Ⅲ「尿を生成する仕組み」の学びを復習しておいてください。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・ テキスト ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真紀子他監修：看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術第1版，メデックメディア。 ・佐藤久美他監修：看護技術がみえる vol.2 基礎看護技術第1版，メデックメディア。						
参 考 文 献	・竹尾恵子監修：看護技術プラクティス 第3版，学研メディカル秀潤社。 ・金田智他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器，医学書院。						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅲ 生活援助技術 清潔・衣生活の援助	担 当 者	後藤 治美	年 次	1	単 位 時 間	20/30時間 1単位
学 修 内 容	人にとって、「清潔を保つ」「身だしなみを整える」ことの意義を学ぶ。さらに、体を守る機能の一つである皮膚・粘膜に働きかけ、防御機構を促進するための看護援助の具体的な方法・技術を学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> ① 人の清潔保持行動の重要性を理解する。 ② 清潔の援助の効果と全身への影響を理解する。 ③ 清潔の援助を実施する上での原則・留意点を理解する。 ④ 身体各部の構造や機能に応じた援助の方法を理解する。 ⑤ 患者および看護師にとって安全で安楽な清潔を保持するための看護援助技術を身につける。 (口腔ケア・足浴・全身清拭・寝衣交換・洗髪) 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人にとっての清潔を保つことの意義 2. 口腔の清潔を保つ目的と援助方法 3. 口腔ケアの実際 4. 部分浴の目的と援助方法 5. 足浴の実際 6. 全身清拭・寝衣交換の目的と援助方法 7. 全身清拭・寝衣交換の実際 8. 全身清拭・寝衣交換の実際 9. 部分浴(洗髪)の目的と援助 10. 洗髪の実際 						講義 講義 校内実習 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる)
成 績 評 価	・方法 筆記試験 35点 実技試験 35点 本科目は70点満点となります。 ※ 本科目と「コミュニケーション」を併せて看護方法Ⅲの評価点(100点満点)となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 各校内実習前に、実施する援助技術についての手順・留意点を指定の用紙にまとめる。(後日提出す ズ) ・留意点 <ol style="list-style-type: none"> ① 校内実習前の事前学習を忘れた場合は、校内実習に参加できません。 ② 学生同士ペアになって看護技術を練習します。常々相手の立場に立った行動に心がけてください。 ③ 校内実習では看護者としての学びだけでなく、患者体験も大切にしてください。 						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術, 医学書院. ・藤本真記子ら監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術, メディックメディア. ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅲ 対人関係の援助技術 「コミュニケーション」	担 当 者	亀澤ますみ	年 次	1	単 位 時 間	10/30時間 /1単位
学 修 内 容	人間は社会的存在として互いの気持ちを伝え合い、理解しあって生きようとしている。その情報交換、意思疎通の行われる過程がコミュニケーションであり、また人間関係を成立させる要素として重要である。医療の場では健康障害という特殊な条件が重なり、その困難さを増すことが多い。その中で看護師は、患者や家族に近い存在として、直接的、間接的なかわりを持ちながら快適な療養生活が行われるように配慮する役割を持つ。そのため、コミュニケーションは看護における中心的技術として必要不可欠である。この単元ではコミュニケーションの基本的概念をもとに、看護場面におけるコミュニケーションのあり方を学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1、普段のコミュニケーションを想起し、コミュニケーションの意義・種類・構成要素・過程・影響などについて理解する。 2、社会生活を営む人間にとっての意義と大切さを理解する。 3、看護の原点・出発点となるコミュニケーションの重要性を理解する。 4、患者・看護師間の信頼関係を深めていくために必要な原則や留意点を理解する。 5、看護場面におけるプロセスレコード活用の意義を知り、振り返りを体験する。 6、講義や実習をもとに自己のコミュニケーションの傾向を知る。 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：コミュニケーションの意義と人間関係への影響を考える			講義			
	第2回：看護場面におけるコミュニケーションの重要性を考える			講義			
	第3回：プロセスレコードの活用と意義を理解する						
	第4回：プロセスレコードをもとに学びの共有			基礎見学実習終了後、意見交換			
	第5回：試験・まとめ			毎回の講義では「所感」を提出する。			
成 績 評 価	<p>・方法 ・筆記試験(30%:担当:亀澤)</p> <p>・基準 ・全体の総合計100%に対し、本校の規定に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 特にありません</p> <p>・留意点 ここで学ぶ、コミュニケーションやプロセスレコードによる振り返りは、今後の実習の中で活用するものです。また、日常生活であっても自己のコミュニケーションを「振り返る」力、相手の意図を汲み取る「感じる」力、そして自分の気持ちを「伝える」力は看護実践力を支える力になります。コミュニケーションの奥深さを感じ、考えながら取り組みましょう。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト ・有田清子他 系統基礎看護講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・アーネステイン・ウィーデンバック コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵 日本看護協会出版</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献	<p>・系統看護学講座 人間関係論 医学書院</p> <p>・長谷川雅美他 編 「自己理解・他者理解を深めるコミュニケーションの上手な方法」 日総研</p>						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ 診療に伴う援助技術 「フィジカルアセスメント」	担当者	孕石 美絵 西川はるみ	年次	1	単 位 時 間	30時間 1単位
学 修 内 容	この単元は、人間にとって生命が維持されるために必要な情報や全身の機能を観察、測定した結果から客観的に患者の全身状態を把握していくフィジカルイグザミネーションとバイタルサインの基本的技術を習得する。看護の対象となる人々の全身状態を系統的に診ていくことで患者に起こっている身体状態を把握するだけでなく、その把握した情報は何を意味するのか(正常異常)を正しく判断できるように必要な基本となる知識後術を学ぶ。						
到 達 目 標	1) 看護に必要なフィジカルアセスメント、バイタルサインの意義・必要性が理解できる。 2) 系統別のフィジカルイグザミネーションの基本技術を実施できる。 3) フィジカルイグザミネーションを通して、身体の構造、機能の正常を意識できる。 4) バイタルサイン測定を正確に行う意義、原理原則を踏まえて正確に測定できる。 5) フィジカルイグザミネーション、バイタルサイン測定で得られた情報をもとに、アセスメントする必要性が理解できる。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法 (形成評価等を含む)
	第1回 フィジカルアセスメント・バイタルサインの意義と必要性① (問診・視診・触診・打診・聴診)・腹部のアセスメント	〔孕石〕					・講義
	第2回 体温の恒常性とアセスメント①	〔孕石〕					・講義
	第3・4回 呼吸器系のアセスメント①②	〔孕石〕					・講義
	第5回 循環器系のアセスメント① (脈拍)	〔孕石〕					・講義
	第6回 循環器系のアセスメント② (血圧)	〔孕石〕					・講義
	第7・8回 バイタルサイン測定技術(体温・呼吸・脈拍・血圧)①② 呼吸器系のアセスメント	〔孕石〕					・校内実習(A・Bに分かれる)
	第9回 循環器系のアセスメント③ (心音)	〔孕石〕					・講義+校内実習
	第10回 筋・骨格系のアセスメント	〔西川〕					・講義
	第11・12回 脳・神経系のアセスメント①②	〔西川〕					・講義
	第13・14回 筋・骨格系のアセスメント・脳・神経系のアセスメント	〔西川〕					・校内実習(A・Bに分かれる)
	第15回 試験	〔孕石〕					
成 績 評 価	・方法 筆記試験 レポート 実技試験 筆記試験80%(孕石50% 西川30%) 実技試験20% ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題	・事前課題: ある場合は事前に提示する ・留意点 フィジカルアセスメントは看護過程を実践するために必要な技術です。バイタルサインを含め臨地実習で頻繁に実践することが多いので、形態機能学の復習を結びつけ積極的に学習することが求められます。校内実習では学生同士で体験していきます。講義のときにも、校内実習でも聴診器や血圧計を使用しますので、聴診器、血圧計を持参して臨んでください。また、技術は1回学んただけでは習得は出来ません。何度も自己学習						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院。 ・熊谷たまき 他監修：フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メデックメディア。 ・高木永子 監修：New看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント, Gakken。 ・必要物品 その都度指定します						
参 考 文 献	・山内豊明 著：フィジカルアセスメントガイドブック, 医学書院。 ・福井次矢 監訳：写真で見るフィジカル・アセスメント, 医学書院。 ・横山美樹 著：はじめてのフィジカルアセスメント, メジカルフレンド社。 ・藤野彰子 他監修：看護技術ベーシックス改訂版, 医学芸術社。						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅴ 診療に伴う援助技術 「与薬」	担 当 者	橋本 恵利子	年 次	1	時 単 間 位	18/30時間 1単位
学 修 内 容	この單元では、診療(診療及び治療)の中でも、薬物療法を実施する際に必要となる基礎知識と看護師の役割を学ぶ。治療法の一つである薬物治療は、医療の中で大きな役割を占めており、薬物の管理・与薬の実施・治療環境を整えるなど看護師が果たす役割は非常に大きい。校内実習では薬物療法の中でも特に看護師が実施する機会の多い「経口与薬」「筋肉内注射」について基本となる知識確実な技術を学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> ① 薬物療法における看護師の役割を理解する。 ② 与薬に関する基礎知識を理解する。 ③ 与薬の基本的な方法と看護の要点を理解する。 ④ 患者の安全・安楽に配慮した「経口与薬」「輸液セットの取り扱い」「注射の準備」「筋肉内注射」の技術を根拠に基づいて実施できる。 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法 (形成評価等を含む)			
	第1回	診療における看護		講義			
	第2回	与薬における看護		講義			
	第3回	経口与薬法		校内実習 (A・Bグループ毎)			
	第4回	注射・輸血の基礎知識		講義			
	第5回	輸液の基礎知識・輸液セットの取り扱い		講義・校内実習 (A・Bグループ合同)			
	第6回	注射の準備・筋肉内注射		講義			
	第7回	注射の準備		校内実習 (A・Bグループ毎)			
	第8・9回	筋肉内注射		校内実習 (A・Bグループ毎)			
	※校内実習後に所感を提出してもらいます。						
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験40% 出席状況・取り組み姿勢5% 事前課題への取り組み15% 「検査における看護」とあわせて100%です。</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 校内演習を安全に行うために必要な知識、技術について学習をしてもらいます。その都度お知らせします。</p> <p>・留意点 ・侵襲を伴う看護技術になります。責任ある判断と倫理的な実践が求められます。根拠に基づいた技術 ・「注射の準備」「筋肉内注射」の校内実習時は、事故防止に心がけ、落ち着いて慎重に行動してください</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院. 佐藤久美他監修：看護技術がみえるvol.1 vol.2 臨床看護技術 第1版, メディックメディア.</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献	<p>坂井陽子他：学ぶ・試す・調べる看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版社株式会社.</p> <p>大岡良枝他：NEWなぜ？がわかる看護技術LESSON, Gakken.</p> <p>坂本すが他監修：ビジュアル 臨床看護技術ガイド, 照林者.</p>						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅴ 診療に伴う援助技術 「検査における看護」	担 当 者	寺岡 智子	年 次	1	単 位 時 間	12/30時間 1単位
学 修 内 容	この單元では、診療時の看護として『検査における看護』について学ぶ。検査の目的・種類について学習し、また、検査時の看護が単に<診療の補助業務>ではなく、<検査を受ける人への看護>であることを理解し、看護の役割を学ぶ。多くの検査の中から<身近な人が受けた検査>の具体的方法や看護について調べ、検査における看護の役割を学ぶ。校内実習では、看護師が実施する中で身体への侵襲がある血糖測定や静脈採血を行う。血糖測定や採血の方法・技術を学ぶと共に、患者体験をすることで身体的・精神的苦痛への配慮を学ぶ。						
到 達 目 標	1) 検査の目的・種類・看護の役割を理解する 2) 臨床での主要かつ基本的な検査について、自ら調べることで知り、学びを共有する 3) 採血における目的・手順・手技・注意点について理解し実施できる 4) 検査を受ける人の身体的・精神的な苦痛を考え、配慮の必要性を理解できる						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
第1回：	検査の目的・種類・看護の役割、注意事項、事故防止			講義 講義 校内実習 校内実習 講義・校内実習			
第2回：	血液検査について						
第3回：	採血に必要な物品の取り扱い						
第4回：	モデル人形による採血						
第5回：	血糖管理						
第6回：	まとめ・試験						
成 績 評 価	・方法 筆記試験25% レポート5% 取り組み姿勢10% *「与薬」と合計して100% ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 各校内実習前に、実施する援助技術についての手順・留意点を指定の用紙にまとめる（後日提出する） ・留意点 レポートでは、文献を活用して積極的に取り組んで下さい 根拠をもとに、正しい手順を理解した上で、実習に取り組んで下さい 採血の学内実習時は、事故予防に心がけ、落ち着いて慎重に行動して下さい						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 佐藤久美他監修：看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術 第1版，メディックメディア。 江口正信編著：検査値早わかりガイド，医学書院。 ・必要物品						
参 考 文 献	村上美好監修：写真でわかる基礎看護技術①，インターメディカ。 玉木ミヨ子編集：看護学生必修シリーズ“なぜ？どうして？”がわかる基礎看護技術，照林社。						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅵ 看護活動に共通の技術 記録・報告、教育的関わり	担当者	木田 文子	年次	1	単 位 時 間	10 / 30時間 1単位
学 修 内 容	看護は、あらゆる年代の個人家族、集団、地域社会を対象とし、対象が本来持つ自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその最期まで、その人らしく生を全うすることができるよう身体的・精神的・社会的に支援することを目的としている。健康の維持と向上に向けて、その人の希望や困難さを理解しようと関わり、その人の学習の価値を尊重できるような看護活動が求められている。この単元では、演習を通して看護の学習支援技術を学び、看護師の役割について理解する。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における学習支援の意義と看護師の役割を理解する。 2. 学習支援計画書を立案し、提案集を作成する。 3. 看護における記録・報告の重要性を理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における記録 2. 看護における報告 3. 看護における学習支援の意義と看護師の役割 4. 学習支援計画書の必要性と計画立案 5. 学習支援の教材作成の準備 						講義 講義 講義 講義 講義
成 績 評 価	・方法 筆記試験 15点 学習支援の課題 15点 本科目は30点満点となります。 ※ 看護方法Ⅵ「感染予防の技術」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 「身近で大切な人」を対象とし、その人がより健康な生活を送れるように「大切な人の健康を守る」ための提案集を作成します。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 ・必要物品						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅵ 看護活動に共通の技術 「感染予防の技術」	担 当 者	吉田 五百枝 小島 太	年 次	1	単 位 時 間	20/30時間 1単位
学 修 内 容	感染に対する基礎知識を微生物学と免疫学と結びつけながら、病院内で起きている感染を予防するために行われている対策、および感染予防の必要な知識・技術を学ぶ。そして、患者の安全を守ると共に医療者自身の安全を守る重要性について学ぶ。						
到 達 目 標	1)看護において安全の意義を理解し、安全を守るための基礎知識を学ぶ。 2)病院で行われている感染予防のための基礎知識・技術を学ぶ。						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 感染防止の基礎知識(吉田)			講義			
	第2回 感染防止対策の基本(小島)			講義			
	第3回 状況に応じた感染予防対策 手指の清潔を考える(吉田)			講義			
	第4回 手指消毒・滅菌手袋の装着(吉田)			校内実習 指定日に事前課題提			
	第5回 ガウンテクニック(吉田)			校内実習 指定日に事前課題提			
	第6回 滅菌用品の取り扱い(吉田)			講義			
	第7回 創傷の治癒過程 創傷管理(吉田)			講義			
	第8・9回 無菌操作(吉田)			校内実習 指定日に事前課題提出			
	第10回 学科試験			講義			
成 績 評 価	<p>・方法:筆記試験(35点)実技試験(35点 ただし試験は100点だが35点換算する)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 夏季休暇に事前課題(感染予防の基礎知識)あり。校内実習前は事前課題あり。</p> <p>・留意点 感染予防の技術は医療施設や家庭でのあらゆる場面で必要な知識、技術である。医療者となる者として清潔、汚染の判断ができるように考えながら授業に臨んでください。 実技試験があります。根拠を踏まえて練習を重ねて試験に臨んでください。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 任和子他著: 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真紀子他監修: 看護がみえる vol.1 基礎看護技術第1版 メディックメディア 佐藤久美他監修: 看護がみえる vol.2 臨床看護技術第1版 メディックメディア</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献	<p>南嶋洋一他: 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 医学書院 坂井建雄他: 解剖生理学 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 医学書院 日本看護協会教育委員会監修: 看護場面における感染防止 インターメディカ</p>						

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅶ 生命活動を支える技術 呼吸・循環を整える技術	担 当 者	木田 文子	年 次	1	単 位 時 間	20 / 30時間 1単位
学 修 内 容	人は、生命維持に重要な役割を担う呼吸と循環によって、身体内の細胞が正常に働き続けるために必要な酸素を取り込み、二酸化炭素や老廃物を排泄する。これらの機能が正常に果たされるためには、内部環境の恒常性が保たれていなければならない。この単元では、呼吸・循環が障害されることによって起こる問題とその看護について学ぶ。また、内部環境の恒常性維持に関わる体温調節機能が障害されることによって起こる問題とその看護について学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとって呼吸すること、循環することの意義を理解する。 2. 呼吸・循環が維持されないことによって起こる症状を理解し呼吸が脅かされることの苦痛・心理を理解する。 3. 呼吸を安楽にする看護技術について理解する。 4. 人間の恒常性維持に関わる体温調節機能の果たす役割を理解する。 5. 体温調節の適応状態を調節するための罨法の方法およびその根拠を理解する。 6. 科学的根拠に基づき、安全・安楽を考えた罨法を習得する。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸困難のある患者への看護 2. 吸入療法とその看護 3. 酸素吸入 4. 薬液吸入 5. 吸入療法とその看護 6. 吸引 7. 体温調節不適應の患者への看護 8. 温罨法 9. 冷罨法 10. 試験 						講義 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義 校内実習(A・Bグループに分かれる) 校内実習(A・Bグループに分かれる) 講義
成 績 評 価	・方法 筆記試験 60点 ※ 看護方法Ⅶ「救命・救急看護」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト ・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術，メディックメディア。 ・佐藤久美他監修：看護がみえる vol. 2 臨床看護技術，メディックメディア。 ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科 目 名	看護方法Ⅶ 生命活動を支える技術 「救命・救急看護」	担 当 者	實石 光歩 救急救命士 吉田 五百枝	年 次	1	単 位 時 間	10/30時間 1単位
学 修 内 容	この單元では、救命・救急看護における看護技術について学ぶ。救急処置は、患者の急変時に行われる処置であり、特に心肺機能停止状態にある対象への救命処置として、初期対応、一時救命処置(BLS)と二次救命処置(ACLS)、止血法について学ぶ。BLSは実際に行えるよう習得を目指す。また、人間の最期である死を迎えるとき、患者と家族がよりよい看取りが行えるための援助方法について学んでいく。						
到 達 目 標	1) 救急看護の役割と対象の特性について理解する。 2) 急変と心肺機能停止の特徴と緊急対応の必要性について理解する。 3) 一時救命処置の内容と方法を理解し、実施することができる。 4) 二次救命処置の内容と方法を理解する。 5) 止血法の種類と方法を理解し、実施することができる。 6) 死の看取りにおける看護の役割と援助方法を理解する。						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1・2回 普通救命講習を受講する(消防署)						消防署にて受講する
	第3・4回 救急カートの物品紹介 救急患者への看護のアセスメントの発表[グループワーク](實石)						講義・グループワーク グループワーク発表内容を評価と
	第5回 看取りの看護(吉田)						講義 所感あり(評価に含まない)
成 績 評 価	・方法: 筆記試験(30%)・グループワーク発表(10%) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	・事前課題 なし ・留意点 基本的な救命処置は繰り返し練習することが求められるため、第1・2回の普通救命講習受講後はイメージトレーニングをしていきましょう。万一、普通救命講習は欠席した場合は必ず年度内に受講してください。 第5回では人の死に携わる者として、皆さん一人ひとりが死について考える機会としていきましょう。						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	・テキスト 任和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 佐藤久美他監修：看護がみえるvol.2 臨床看護技術，メディックメディア ・必要物品 第3・4回のグループワークでは看護辞書、三角巾の準備をする。						
参 考 文 献	キューブラ＝ロス：死ぬ瞬間，読売新聞社 竹尾恵子監修：看護技術プラクティス第2版，学研 アルフォンス・デーケン：よく生きよく笑いよき死と出会う，新潮社						

授業概要

科目名	看護方法Ⅷ 看護過程展開の技術	担当者	木田 文子 西川はるみ	年次	1	単位 時間	30時間 1単位
学修内容	<p>「看護過程展開の技術」は、一言でいえば看護の目標を達成するための方法論の一つである。つまり、看護の対象となるその人にとって必要な援助を見極め、その人らしく生活できるよう支援していくための方法である。看護過程は、看護の対象となる人々と看護実践者との対人関係の中で成立し、展開するものである。すなわち、看護過程は、対人的援助関係の過程を基盤として、看護の目標を達成するための科学的な問題解決法を応用した思考過程の道筋である。看護過程を展開していくためには、問題解決思考、クリティカルシンキング、倫理的配慮、リフレクションなどを基盤として、既習の知識を活用することが必要となる。この単元では、演習を通して基本的な看護過程展開の技術を学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。 2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、倫理的配慮など看護過程の基盤となる考え方を理解する。 3. ロイ適応看護理論における看護過程展開の進め方を理解する。 4. 看護過程の各段階であるアセスメント(全体像・関連図・分析)、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価の基本的な考え方とその実際を学ぶ。 						
授業計画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概要 2. 看護過程の基盤となる考え方 3. ロイ適応看護理論の主要概念の考え方、4つの適用様式の定義と構成 4. 講義:看護過程の第1段階:アセスメント(情報の収集と分析) 5. 情報の整理 6. 情報の整理・分析 7. 全体像を描く 8. 全体像 9. 全体像・情報の分析 10. 情報の分析 11. 関連図・看護問題の明確化 12. 関連図 13. 看護計画の立案、実施、評価 14. グループ学習 15. 試験・解説 						講義 講義 講義 講義 講義・演習 講義・演習 講義 講義・演習 講義 講義・演習 講義 講義・演習 講義 講義・演習 講義
成績評価	<p>・方法 筆記試験 50点 課題 50点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事前課題・留意点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。</p>						
テキスト・必要物品	<p>・テキスト・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 ・香春知永他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論，医学書院。 ・小田正枝編集：ロイ適応看護理論の理解と実践，医学書院。</p> <p>・必要物品</p>						
参考文献							

基礎看護実習Ⅰ 事前見学実習

はじめに

基礎看護実習Ⅰは、初めて行う臨地実習である。事前見学実習では、既習の知識を踏まえ現場で患者に実践することによって統合するという臨地実習の目的を果たすために、患者の置かれている状況を事前に知り、学習環境の変化にスムーズに対応することが望まれる。また、事前に実習病院および病棟に慣れることは、学習への動機付けにも成り得る。見聞した内容の意味づけを行い、基礎看護学実習Ⅰの学びに繋げていく。

1. 実習目的

実習施設の特徴や患者の置かれている状況を知る。また看護実践の見学や患者との会話体験を通して、今後の看護への学習意欲を持つ。

2. 実習目標

- 1) 講話を通し、実習病院の特徴・機構および看護の役割と魅力を知る。
- 2) 病院・病棟の見学を通し、病院・病棟の構造、特徴を知る。
- 3) 患者との会話の体験を持つ。
- 4) 患者との会話体験や看護実践の見学を通し、療養生活を送る患者の状況を知るとともに看護者の役割について考えたことを表現する。

3. 時間数と単位数 事前見学実習 7.5時間×1日（単位数は基礎看護実習Ⅰに含まれる）

4. 実習場所 藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

5. 実習目標と学習内容、学習方法

実習目標1. 講話を通し、実習病院の特徴・機構及び看護の役割と魅力を知る。	
学習活動	学習内容と学習方法
講話を聴き、実習病院の特徴や看護の役割を知る	・病院長による「見学病院の機構と特徴、看護学生に望むこと」、看護部長による「看護者の役割、看護の魅力、看護学生に望むこと」の講話から、学んだことを表現する。 ・これから看護を学んでいく学生として必要なことは何かを考える。
実習目標2. 病院・病棟の見学を通し、病院・病棟の構造・特徴を知る。	
実習病院・病棟の特徴を知る。	・グループに分かれて院内の見学を行い、病院全体の構造や多職種の存在を知り、患者にとっての安全・安楽な環境、患者を取り巻く多職種の存在を知る。 ・実習病棟のオリエンテーションを受けることで病棟の特徴を知る。
実習目標3. 患者との会話の体験を持つ。	
患者の話を傾聴し、療養生活を知る。	・患者との会話では、聴く姿勢を大切にする。 ・患者の言動、話している内容をありのまま聴き取る。 ・療養生活を送る患者の状況と患者がどのような思いで生活を送っているのかを知る。
実習目標4. 患者との会話体験や看護実践の見学を通し、療養生活を送る患者の状況を知るとともに看護者の役割において考えたことを表現する。	
体験や見学を通して学んだことを具体的に表現する	・学びの会では、自ら発言し他者の意見を聴く姿勢を大切にする。 ・患者から聴かれた言葉や患者への看護実践を見学することから患者の療養生活環境とはどういうものかを考える。 ・看護とは何か、看護者としての役割はどのようなことか、どのようなことを学べたのかを表現する。

6. 実習の動き

1) 実習期間 2019年 6月 14日(金)

2) 実習計画

時間	内容
8:30~9:00	実習準備
9:00~9:30	講話「見学病院の機構と特徴、看護学生に望むこと」 * 病院長
9:40~10:20	講話「看護者の役割、看護の魅力、看護学生に望むこと」 * 看護部長
10:30~12:00	病院見学 * 教育担当科長(教育担当看護師長)他
12:00~13:00	昼食休憩
13:00~13:30	病棟オリエンテーション * 病棟指導者(師長・実習指導者等)

	病棟の構造・特徴、患者の特徴、患者の日課、看護者の役割 等
13:30~15:00	看護実践見学 * 実習指導者他 患者との会話体験
15:15~17:00	学びの会(各病院ごと) * 実習指導者他、司会は教員

7. 提出物 事前見学実習総括

8. 実習に関連した予定

時期	予 定	備 考
約2週間前	実習ガイダンス	担当:実習調整担当教員 ※実習要項を持参する。
約10日前	事前見学実習オリエンテーション	担当:基礎担当教員 ※実習要項を持参する。
実習日の前週	病院毎のオリエンテーション	各病院責任者より説明日時を掲示する。 ※実習要項を持参する ・焼津市立病院:増田教員 ・藤枝市立病院:橋本教員 ・榛原総合病院:小林教員
実習日 実習日	実習予定参照	※自己の身だしなみが周囲に与える影響について考え、清潔感のある身だしなみ、決められた服装で臨む。
翌日	事前見学実習総括の提出	グループメンバー全員揃って担当教員に8:40までに提出する。 ※時間厳守
夏休み前	提出した総括に関する指導を受ける	指導された事に対し、追加や修正をして再提出する。 (再提出日は各自が担当教員に確認する。)

基礎看護実習 I

はじめに

臨地実習では、学校で学んだ理論や技術を基礎とし、実際の現場で実践することを通して、それらを統合して学んでいくことが重要である。1年次に学んだ知識や基礎看護技術を、臨地で具体的に表現することによって体験し、実践能力を養うことが求められる。

基礎看護実習 I は、初めて行う臨地実習である。看護の初学者としては、まず患者との関係が成立することが必要になる。患者がどのような環境の中で生活し療養生活を送っているのかを知り、援助を通して患者との関係を築くことが第一義的に必要なことである。そのためには、コミュニケーションによって人間関係を築く努力が欠かせない。患者がどのような思いで療養生活を送っているのかという関心と共に、患者を人として尊重し、ありのままに捉えることの大切さを学ぶ。また、看護技術については、患者の日常生活上の苦痛や困難からその必要性を考え、患者の安全・安楽を意識しながら、実際に援助を体験してみることを通して、人へ援助することの重要性について考えていく。そして、これらの看護の実践を通して、自分の考え方や行動について振り返り、看護者としての必要な態度について考えていく。

1. 実習目的

患者との人間関係を築き、患者の日常生活の苦痛や困難を実際に知る。また看護の実践を通して、自己の姿勢を振り返り、看護者としての必要な態度について理解する。

2. 実習目標

- 1) 人間関係を築くために、患者を尊重した関わりを持つ努力をする。
- 2) 患者の健康状態と日常生活に関する観察をする。
- 3) 健康を障害されたことにより起こる日常生活上の苦痛や困難に気づく。
- 4) 既習の基礎看護技術を用いて患者にとって安全で安楽な日常生活援助を実施する。
- 5) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

3. 時間数と単位数

1単位 45時間

- ・全体オリエンテーション 3時間（事前見学実習 1.5時間 基礎看護実習 I 1.5時間）
- ・事前見学実習 7.5時間×1日
- ・病棟実習 7.5時間×4日、4.5時間×1日

4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

5. 実習目標と学習内容、学習方法

実習目標1. 人間関係を築くために、患者を尊重した関わりを持つ努力をする。	
学習活動	学習内容・学習方法
①自ら積極的に患者に関わる努力をする。	・自己紹介をし、自ら関わる努力をする。 ・患者の状況を考え、自ら関わろうと患者のベッドサイドに行く。 ・患者が話している内容をよく聴き、自分から関わる努力をする。 ・関わりにおいて困ったときは早めに指導者・教員に相談する。 ・自分の関わりの中で心に留まった場面、振り返りたい場面について目的を明確にしてプロセスレコードに起こして振り返る。 ・コミュニケーション技術については、指導者や他のナースの関わりを参考にして学ぶ。
②患者の言動に関心をもち、ありのまま捉えている。	・患者との会話では、聴く姿勢を大切にする。 ・患者の話をよく聴き、自分の思いや考えを含めず、患者の言動をありのままに捉えて表現する。
③患者の言動の意味を考え表現する。	・患者の言動に、患者のどのような思いが含まれているのか、その言動の意味を考え表現する。 ・必要時、表現されたことの意味を患者に確認する。
④患者の言動に対して自分の思いを患者に表現する。	・患者の言動に対して、状況に合わせて、自分の思いを患者に伝える。 ・伝え方としては、言葉遣いだけでなく、態度、表情、スキンシップなど、患者との関わりの中で表現する。
⑤患者の思いを大切に	・患者の意思を尊重した共感的態度(うなずき、反復)を示す。 ・患者の言動を肯定的に受け止め、患者の思いを考える。 ・自分の行動を振り返り、体験による学びから、患者の思いを大切にするとはどういうことかを考え表現する。

実習目標2. 患者の健康状態と日常生活に関する観察をする。	
学習活動	学習内容・学習方法
①患者の健康状態に関する観察を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として健康とは何かを理解する。 ・患者の健康状態及び心身の苦痛が何であるか観察する。 ・患者の訴えのみでなく、表情・しぐさなどの非言語的表現を大切にする。 ・カルテなどの記録からも患者の健康状態に関する情報を得る。 ・観察するための事前準備をする。観察の視点と方法を考える。
②患者の日常生活に関する観察を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者がどのような入院生活を送っているのかを観察する。 ・患者の入院生活と入院前の生活を知るための事前準備をする。 ・入院前の生活と入院後の生活を知ることから、どのような点で異なっているのかを考察し、患者の置かれている生活を理解する。
③事実と判断の区別をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・事実(情報・結果)は自分の主観は含まず、見た事、聞いた事をありのまま捉え、判断したことと区別して表現する。
④主観的情報と客観的情報を理解し、生理的様式、心理社会的様式に分類する。	<ul style="list-style-type: none"> ・主観的情報と客観的情報の違いを理解し、生理的、心理・社会的様式に分類して表現する。 ・主観的情報を裏付ける客観的情報、客観的情報を裏付ける主観的情報、2つの情報を関連づけて表現する。 ・日々追加されていく情報を、指導を受けながら整理していく。
⑤適切な手段で情報収集する。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集として、観察、測定、面接、記録物の手段があることを知る。 観察:看護者の感覚を通して情報を集める。 測定:測定できる情報を集める。(例:バイタルサイン・検査データ) 面接:患者や家族からの話を聴いて情報を集める。 記録物:記録(電子カルテ・外来カルテ等) ・患者の状態を知るために必要な情報収集の手段を選ぶ。

実習目標3. 健康を障害されたことにより起こる日常生活上の苦痛や困難に気づく。	
学習活動	学習内容・学習方法
①患者の療養生活を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者がどのような日常生活を送っているのかを患者との関わりから知る。 ・患者の健康状態、日常生活は入院前と何が変わっているのか、なぜそうなっているのかを考える。 ・知ることのできた情報は、情報用紙に整理する。
②患者の入院前の生活について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者や家族との会話やカルテ等から、患者の入院前の生活について知る。 ・知ることのできた情報は、情報用紙に整理する。
③患者の日常生活上の苦痛や困難に気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者との直接的な関わりから得た情報を中心として、現在の健康状態を知り患者の苦痛や困難に気づき考える。 ・カルテなど記録にあったことをそのまま患者の苦痛や困難と捉えず、必ず、実際の様子を観察し、コミュニケーションを通して捉えていく。 ・患者が受けている治療や援助を知り、その根拠を考えたり、調べたりする。

実習目標4. 既習の基礎看護技術を用いて患者にとって安全で安楽な日常生活援助を実施する。	
学習活動	学習内容・学習方法
①患者に必要な日常生活援助に気づき、用いる看護技術がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の苦痛や困難から、患者にとって必要な日常生活援助は何かを考える。 ・患者にとって必要な日常生活援助を行うために、既習の看護技術の中で、どのような技術を用いることができるかを考える。
②患者に必要な看護技術の目的を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術の一般的な目的を踏まえ、患者にとっての目的は何かを考える。
③必要物品の準備、後片付けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の状態に合わせた準備、適切な後片付けを行う。 ・実施前に必ず物品の点検・確認を行う。実施後の消毒方法やリネンの扱いは病棟によって異なることから、オリエンテーションで示された方法で行う。不明な時は、指導者や病棟スタッフに確認する。
④患者にとっての安全な援助を実施するための方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の状況をふまえ、患者にとって安全な援助を実施するための留意点や具体的方法を考え表現する。 ・援助の目的、根拠、具体的な方法、留意点を用紙に詳しく書き出し、自ら指導者や教員に提示し、確認や助言を求める。
⑤患者にとっての安楽な援助を実施するための方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の状況をふまえ、患者にとって安楽な援助を実施するための留意点や具体的方法を考える。 ・援助の目的、根拠、具体的な方法、留意点を用紙に詳しく書き出し、自ら指導者や教員に提示し、確認や助言、協力を求める。
⑥患者にとっての安全を考慮しながら援助を	<ul style="list-style-type: none"> ・実施前の患者の状態を確認し、実施可能かを判断する。 ・患者の安全を確認しながら援助を行う。

実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の状況に応じた安全を考え、可能な範囲で患者の希望を取り入れる。 ・患者の安全を確保できているかを考え、必要に応じて協力を求める。
⑦患者にとっての安楽を考慮しながら援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施前の患者の状態を確認し、実施可能かを判断する。 ・患者の安楽を確認しながら援助を行う。 ・プライバシーや羞恥心に配慮する。 ・患者の状況に応じた安楽を考え、可能な範囲で患者の希望を取り入れる。 ・患者の安楽を確保できているかを考え、必要に応じて協力を求める。
⑧看護援助を受けている患者の反応を観察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の看護援助に集中せず、看護援助を受けている患者の反応を表情やしぐさ、言葉などから観察する。
⑨実施した援助の結果について振り返り、患者にとっての援助の必要性を考え表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の反応や結果を表わし、実施した援助が患者にとってどうであったのかを振り返り、どのすればよかったのかを具体的に考える表現する。 ・患者の反応や結果から実施した援助が患者にとってどうであったのかを考える。
⑩実施したことを報告・記録する体験を通し、記録・報告の重要性に気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者に実施後したことを、5W1Hや主観的・客観的情報を考慮して報告する。 5W1H: ・Who 誰が ・What 何を ・When いつ ・Where どこで ・Why なぜ(どんな目的で) ・How どのように ・患者に実施した看護援助をありのまま捉え、主観的情報と客観的情報の両方を含めた報告・記録を行う。 ・報告・記録する体験を通し、記録・報告の重要性を考え、表現する。

実習目標5. 看護学生として自らの行動に責任を持ち、看護倫理に基づいた行動をとる。	
学習活動	学習内容・学習方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習させていただく学生として、身だしなみを整え、挨拶、言葉遣い、表情立ち居振る舞いなどが、人間関係にどのような影響を与えるのかを考え行動する。 ・看護を学ぶ学生として求められているルールを守り、自己の準備を整え、決められた時間を厳守し約束を守る。 ・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。 ・やむを得ず、時間や約束を守ることができない場合は、その旨を報告し、どうするのかを考え責任のある行動をとる。
②あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学生として、知り得た個人情報については、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。 ・実習中どうしたらよいのか迷う時、また何か問題が起こった時には、速やかに報告・連絡・相談を行う。 ・自己の言動を振り返り、その言動が相手にどう影響したのかを考える。 ・受け持ち患者に対する責任をもち、患者との関わりで学び得たことを大切に、表現する。 ・日々の振り返りを、次の行動につなげる。
③主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。 ・学習したものを積み重ね、活用する。 ・質問されたことや疑問をそのままにせず、追加学習を主体的に進める。 ・他者の意見を聴く姿勢をもちながら、自分の意見を相手に伝える。
④より良い看護を行うため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に明確に伝えるための態度や言葉使いについて考える。 ・勇気をもって、自分の考えや思いを相手に伝える努力をする。 ・申し送りやミーティングから得られた情報を捉え、わからない専門用語については自ら調べて理解する。
⑤より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続する。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護者として健康管理することの重要性について考える。 ・生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないよう、自己の心身の健康管理を行う。 ・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、手洗いの徹底、含嗽・マスクの着用を行う。 ・体調不良の場合は、適切な判断や行動をとれるよう、必要に応じて報告・連絡・相談をする。
⑥常に自己を振り返り、自己成長させていく努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、自己の言動を振り返り、次の行動につなげる。 ・自己の言動を客観的に見つめられるような場面を選択し、プロセスレコードで振り返り表現する。 ・自己の言動を客観的に振り返り、看護者となるために必要な姿勢と、自己の行動を対比させ、自己の課題を見出す。

6. 実習の動き

1)実習期間 2019年10月15日～10月21日までの5日間

- 2)実習計画
- | | |
|-----|--------------------------------|
| 1日目 | 病棟オリエンテーション・受け持ち患者の決定・看護援助への参加 |
| 2日目 | 患者との関わり・看護援助への参加 |
| 3日目 | 午前:患者との関わり/午後:学びの整理・日常生活援助の準備 |
| 4日目 | 日常生活援助の実施 |
| 5日目 | 学びの会 (13:00終了) |

7. 看護技術の到達項目と学び方

- ・実習に向けて、既習の基礎看護技術については知識・技術の復習、練習を行う。
- ・実習では、患者にとって安全・安楽な援助を実施するために、事前に学習し、必ず指導者または教員とともに行う。技術の基本をふまえて、その患者にとっての安全・安楽を考え、具体的な計画を立てたうえで実施する。実施した看護技術については、次に活かせるように丁寧に振り返りを行う。

既習の看護技術: 環境整備・ベッドメイキング
清潔援助
移乗・移動援助
食事援助
バイタルサインの測定
看護過程展開技術(情報収集)

8. 提出物一覧

- 1)ポートフォリオ
- 2)青ファイル: 経験録
- 3)赤ファイル: 実習状況の記録

9. 事前準備について

- 1)看護技術練習 ・空き時間を活用して、計画的に練習をする
- 2)既習学習の復習 ・既習の学習内容を、計画的に復習する。
・学習したことは、学習ファイルに綴じ、実習先で活用できるように工夫する
既習学習の一例 *看護学概論
*基礎看護技術
*看護過程
*臨床看護総論
*実習病棟の診療科に関係する形態機能学
*血液検査等の基準値 など
- 3)実習オリエンテーションを受ける ※事前に実習習要項を熟読しておく
- 4)前回の記録を読み返し、準備しておく 事前見学実習総括

基礎看護実習Ⅱ

はじめに

基礎看護実習Ⅱでは、基礎看護実習Ⅰでの学びを基に、看護過程の展開に必要な意味のある情報を捉えることと看護の視点を培っていくことをねらいとしている。そのためには、日常生活に視点をおきながら、患者がどのような環境の中で療養生活を送っているのかを観察やコミュニケーションを通して知ることだけでなく、疾病が患者の生理的側面や心理・社会的側面にどのように影響しているのかを把握し、考えていく必要がある。看護援助は、看護技術の安全・安楽についての原則をふまえ、援助の必要性や根拠を明確にし、日々の振り返りを活かしてその患者に適した技術を考え、実施していくことが望まれる。

またこの実習では、一人の看護師に同行することから日常生活援助の実際を学ぶとともに、看護者として必要な役割、患者-看護師関係について考え、自己の実習につなげていく。そして、患者との積極的な関係を築くために、患者の話を傾聴することと、尊重した関わりができることを目指す。これらの過程から自らを客観的にみつめ、看護者としての自分や基礎看護実習Ⅰで気づいた自己の課題について考えを深めていく。

1. 実習目的

患者の全体像を捉え、健康を障害されたことにより起きた日常生活の状況から、患者に必要な看護を見出し、日常生活援助を実践する能力を身につける。また、患者との人間関係を深めながら看護者としての自己を成長させる姿勢を養う。

2. 実習目標

- 1) 情報収集を通して、生理的側面、心理・社会的側面から患者の現在の状況を考える。
- 2) 患者に適した個別性のある日常生活援助を考え、日々の振り返りを活かし実施する。
- 3) 患者との人間関係を深め、患者を尊重して関わる。
- 4) 看護師に同行することから日常生活援助の実際、患者-看護師関係について学び、看護者として必要な役割について考える。
- 5) 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

3. 実習時間数と単位数

2単位 90時間

- ・全体オリエンテーション 1.5時間
- ・病棟実習 7.5時間×11日、6.0時間×1日

4. 実習場所

藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院、榛原総合病院

5. 実習目標と学習内容、学習方法

実習目標1. 情報収集を通して生理的側面、心理・社会的側面から患者の現在の状況を考える。

学習活動	学習内容と学習方法
①患者の疾患に関する病態生理、病状、治療方針を知る。	・患者との関わり、実習指導者の説明や電子カルテからの情報、追加学習などから、病態生理、病状、治療方針を知る。 ・疾患によって障害されている機能は、本来健康な状態であればどのような機能を担っているのかを学習し、「全体像」用紙の健康障害の種類に表す。 ・患者の疾患に関する病態生理を学習し、患者の現在の症状と結びつける。また患者の治療方針について知る。受け持ち患者の病態説明を実習指導者から受け、わからない事は積極的に質問し、疾患に関する理解を深める。 ・カルテからの情報や患者との関わりから、患者の入院に至るまでの経過や現在どのような健康の段階にあるのかを知る。
②患者の生理的側面における情報収集をする。	・生理的様式9つのカテゴリーが、それぞれ何を意味しているのかを理解する。 ・患者の反応を見ながら意図的に情報収集をする。 ・収集した情報がどのカテゴリーを意味するものであるのかを考え、「情報の整理・分析」用紙に整理していく。 ・情報は観察、測定、面接からありのままの事実を捉える。 ・カルテからの情報だけでなく、患者と実際関わる中で得られる情報を大切にする。 ・情報収集において、自分のペースで一方的なコミュニケーションや関わり(質問攻めなど)をするのではなく、患者の反応をみながら、また患者の話に耳を傾ける。
③患者の心理・社会的側面における情報収集をする。	・3つの心理社会的様式の意味を理解し、患者の反応を見ながら、意図的に情報を収集する。 ・収集した情報が何を意味しているのかを考え用紙に「情報の整理・分析」に整理し

	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と言語的コミュニケーションだけでなく、非言語的コミュニケーションからも捉えていく。 ・カルテからの情報だけでなく、患者と実際関わる中で得られる情報を大切にする。 ・情報収集において、自分のペースで一方的なコミュニケーションや関わり(質問攻めなど)をするのではなく、患者の反応をみながら、また患者の話に耳を傾ける。
④患者の生理的側面における状況を考え表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本来の人間の身体機能や日常生活行動、また入院前の生活との比較から、現在の状態や思いを考え表現する。 ・検査値に関しては、基準値と比較して考える。
⑤患者の心理・社会的側面における状況を考え表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでどのような生活を送っていたのか、現在はどのような生活を送っているのかを知り、入院前の生活との比較から、現在の状態や思いを考え表現する。 ・これまでどのような役割を担っていたのかを知り、現在の状態に対して患者はどのような思いや考えを抱いているのかを知り、現在の状態や思いを考え表現する。
⑥患者の全体像を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生理的側面、心理・社会的側面における情報を整理し、発達段階、健康障害の種類、健康の段階、ライフプロセスの特徴の4つの視点で、患者の全体像を表現する。 ・人物像を出来るだけリアルに描くことで、患者の全体像の把握に活かす。

実習目標2. 患者に適した個別性のある日常生活援助を考え、日々の振り返りを活かし実施する。

学習活動	学習内容と学習方法
①情報のアセスメントから患者に必要な援助の目的を述べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者と日々関わる中で、患者が日常生活においてどのような事に苦痛や困難を感じどのような援助が必要であるのか、患者の現在の状態から考える。 ・その援助が何故必要なのか根拠を明らかにして表現する。 ・必要な援助の目的や根拠は、日々の実習記録に表わす。
②準備及び後片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の状態に合わせて必要な物品を考え、準備する。準備に際しては必ず点検を行い、事前にシミュレーションをしておく。後片付けを適切に行う。
③患者の状態に合わせた安全・安楽な援助を考え表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の状況をふまえ、患者にとって安全・安楽な援助を実施するための留意点や具体的方法を考える。 ・患者に必要なと考えた援助については「援助計画」用紙に記載する。 ・日々、計画し実施する援助については、別紙に援助の目的・根拠を明確にし、具体的な方法を書く。その都度、自ら指導者や教員に確認、助言を求める。
④常に患者の安全に気を配る。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施前の患者の状態を確認し、実施可能かを判断する。 ・患者にとっての安全を考え、常に患者の反応をみながら援助を行う。
⑤常に患者の安楽が保たれているかを考え、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施前の患者の状態を確認し、実施可能かを判断する。 ・患者にとっての安楽を考え、苦痛や疲労感はないかを配慮し、常に患者の反応をみながら援助を行う。
⑥日々の振り返りを活かした援助を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施した援助が患者にとってどうであったかを振り返り、どうすればよかったのかを具体的に考え、次の援助に活かす。 ・患者に合わせた援助を目指し、日々の振り返りの積み重ねを大切にする。
⑦実施中、実施後の患者の反応を観察し、その意味を考え表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の反応を見ながら援助を実施し、観察した患者の反応をありのまま表し、その意味を考え表現する。 ・自分の行為が、患者にどのように影響しているのかを、反応をみながら考える。 ・実施後の振り返りを丁寧に行い、記録に表わす。
⑧実施した内容について報告する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施した内容について整理し、相手に伝わるように報告する。 ・事実をありのままに、要点を絞ったわかりやすい報告を心がけて行う。 ・実施した内容によって報告するタイミングを考える。

実習目標3. 患者との人間関係を深め、患者を尊重して関わる。

学習活動	学習内容と学習方法
①患者の話に傾聴する。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の思いを理解しようとする姿勢で傾聴し、傾聴とはどのようなことであるかを考える。 ・コミュニケーションという場だけでなく、患者との関わりすべてにおいて聴く姿勢を大事にする。
②患者個人を尊重した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の言動をありのままに捉え、肯定的に受けとめる。 ・患者の言動の意味を考え、患者の意志を確認しながら行動する。 ・援助等の関わりにおいては、患者の意思を必ず確認し、患者と相談して行う。
③患者との人間関係を深める努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の状況を考え、自ら積極的に関わり、患者のことを知ろうと努力する。 ・患者との関係を深める努力をし、関わりに迷いや不安がある時はそのままにせず指導者や教員に相談する。
④患者との関係において自分自身を客観的に振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者との自分の関わり(言動)を客観的に、また患者の立場から振り返ることで、自分がとりやすい行動や態度、患者にとってどのような関わりであったのかに気づき、患者との人間関係を深めていくことにつなげる。 ・日々の記録やプロセスレコードを用いて、場面を具体的に振り返り、患者と自分と

	<p>の関わりを客観的に振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスレコードを用いたカンファレンスを行う。
⑤患者の反応を相手の立場から考え表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の言葉や行動には、どのような心理が伴っているのか、何故そのような言葉や行動が表れているのかを、自分が患者と同じ状況であったらどうだろうかと具体的に考える。 ・言葉という言語的な部分だけでなく、表情・しぐさなど非言語的な部分と合わせて考える。

実習目標4. 看護師に同行することから日常生活援助の実際、患者-看護師関係について学び、看護者として必要な役割について考える。

学習活動	学習内容と方法
①看護師の一日の行動を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・1人の看護師と行動を共にすることで看護場面の実際を知り、看護師がどのような看護業務を行い、どのように行動しているのか、その実際を知り表現する。 (日常生活援助、診療の補助、点滴の準備・処置など)
②看護師の行動が何を意味しているかを考え表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師が行っている行動や援助をよく見て、その内容と目的を知る。看護師の行動が何を意味しているのか、患者にとってどのような意味があるのかを考える。看護師の行動からだけでなく、その時の患者の様子と結びつけて考え表現する。 (安全・安楽の視点、優先順位など)
③スタッフ間での報告・連絡・相談の重要性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような時にどのような内容の報告・連絡・相談が行われているのかを知り、何故・何の為にに行われているのか、その意味を考え表現する。
④チームで協力することの必要性がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護がチームで行われていることを学び、チームの一員としてどのように行動しているのか、その中で責任や協力について考え表現する。
⑤患者との関わりにおける看護師の態度を考え表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な看護場面での看護師の患者への関わり方や患者の反応を見て、看護師の態度について考え表現する。 ・表面的な態度を見るだけでなく、看護師はどのようなことを考えて態度として表しているのかを考える。

実習目標5. 看護学生として、看護倫理を基本とした姿勢を持ち行動する。

学習活動	学習内容と方法
①看護学生としてマナーやルールを意識した行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習させていただく学生として、身だしなみを整え、挨拶、言葉遣い、表情立ち居振る舞いなどが、人間関係にどのような影響を与えるのかを考え行動する。 ・看護を学ぶ学生として求められているルールを守り、自己の準備を整え、決められた時間を厳守し約束を守る。 ・記録物の提出方法や提出期限を確認し、指定された期日や方法を守る。 ・やむを得ず、時間や約束を守ることができない場合は、その旨を報告し、どうするのかを考え責任のある行動をとる。
②あらゆる人々の尊厳と権利を守り、看護学生として責任を持ち誠意ある行動をとる。	<ul style="list-style-type: none"> ・看護学生として、知り得た個人情報については、守秘義務を守るよう細心の注意を払う。 ・実習中どうしたらよいのか迷う時、また何か問題が起こった時には、速やかに報告連絡・相談を行い、患者の安全・安楽を守る。 ・自己の言動を振り返り、その言動が相手にどう影響したのかを考える。 ・日々の振り返りを、次の行動につなげる。 ・受け持ち患者に対する責任をもち、最後までやり遂げる。
③主体的な学習姿勢を持ち、他者と相互に高めあう努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な知識や技術は、事前学習したうえで実習に臨む。 ・学習したものを積み重ね、活用する。 ・質問されたことや疑問をそのままにせず、追加学習を主体的に進める。 ・わからない部分は、積極的に助言を求め、受けた助言を活かしていく。 ・自分の意見を積極的に伝えるとともに、他者の意見を大切に聴き、お互いに学びを共有し合い、深めていく。 ・カンファレンスにおいては、グループで司会者を順番に決め、司会者(リーダー)役割、メンバー役割を考え、お互いに学び合う姿勢を持つ。 ・自己の言動が、患者や周囲(グループメンバー、スタッフなど)にどのように影響したのか、次にどうすればよいのかを客観的に振り返る。
④より良い看護を行うため、保健医療福祉チームの一員として責任を持って情報を共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に明確に伝えるための態度や言葉使いについて考える。 ・事実に基づく自分の考えと、助言されたことを区別して、表現する。 ・申し送りやミーティングから得られた情報を捉え、わからない専門用語については自ら調べて理解する。 ・看護に必要な情報を申し送りやミーティング、カンファレンス、カルテなどから得て、援助に活かす。

⑤より良い看護を行うために自己の健康に留意し、心身ともに安定した状態で実習を継続す	<ul style="list-style-type: none"> ・看護者として健康管理することの重要性について考える。 ・生活習慣を整え、他者に心配や迷惑をかけないよう、自己の心身の健康管理を行う。 ・看護学生として、他者への感染予防に責任を持ち、手洗いの徹底、含嗽・マスクの着用を行う。 ・体調不良の場合は、適切な判断や行動をとれるよう、必要に応じて報告・連絡・相談をする。
⑥常に自己を振り返り、自己成長させていく努力をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己の課題・目標」を意識した行動をとり、日々の振り返りから、見えてきた自己の課題に対して、具体的な行動を考え、取り組む。 ・振り返りは、日々の実習記録の中で丁寧に行い、次の行動につなげる。 ・学んだ事柄を具体的に表現する。 ・看護者としての自己の課題を知識・技術・態度面から考える。その課題に今後どのように取り組んでいこうとするのかを考え表現する。

6. 実習の動き

1) 実習期間 2020年1月15日から1月30日までの12日間

2) 実習計画

1日目	病棟オリエンテーション・個人面接
2日目	同行実習
3日目以降	患者との関わり・日常生活援助の実施
6日目	午後：学びの振り返り・過程記録の指導
8日目	学びの振り返り・日常生活援助の準備
10日目	学びの振り返り
12日目	学びの会・個人面接 (15:30終了)

7. 看護技術の到達項目と学び方

- ・既習の基礎看護技術を基に患者に適した方法で日常生活援助を行う。
- ・患者にとって安全・安楽な援助を実施するために、事前に学習し必ず指導者または教員とともに行う。
- ・患者の日常生活がどのようになっているのかを知ることから、援助に結びつける。

技術項目	達成度	実習方法と留意点
<環境調整技術> 環境整備 ベッドメイキング シーツ交換	I I II	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の生活環境であるベッド・ベッド周囲の環境がどのようになっているのかを観察するとともに、患者にとっての安全で安楽な療養環境を整える。(実習病棟での環境整備に使用する物品の確認する) ・患者にとっての目的を考え、計画・実施する。
<食事の援助技術> 配膳・セッティング 食事介助	I II	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の食事摂取状況について観察し、援助が必要であるかを考える。
<排泄援助技術> 自然な排泄を促す援助	II	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の排泄状況について観察し、援助が必要であるかを考える。
<活動・休息援助技術> 歩行、移動介助 車椅子移送 睡眠を意識した日中の活動の援助	II II II	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の移動動作がどのように行われているのかを観察し、援助が必要であるかを考える。 ・移動動作に関しては転倒・転落の危険性、安全について十分に考える。
<清潔・衣生活援助技術> 口腔ケア 清拭 手浴・足浴	II II II	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の清潔・整容行動がどのように行われているのかを観察、見学を通して知る。 ・基本を基に患者の状態・状況に応じ個別に物品、方法を考える。 ・湯温の確認は確実にを行う。 ・方法は具体的に(いつ・どこで・何を・何故・どのようにして)イメージしながら考え、病棟にある学生の物品、実施場所を確認する。また空いている時間を使って練習する。
<呼吸循環を整える技術> 温罨法・冷罨法	II	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の呼吸、循環状態について観察し、援助が必要であるかを考える。
<症状・生体機能管理技術> バイタルサイン測定 フィジカルアセスメント	II	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の排泄状況について観察し、援助が必要であるかを考える。 ・必要物品の点検を必ず行う。 ・測定における手技の根拠を考えて行い、正確に測定する。 ・測定・観察したことが、正常であるのか異常であるのかを判断する。基準値から判断するのではなく、患者の普段の値を知り患者にとっての基準値を知り、患者の状態を考えていく。 ・患者の疾患について学習し、観察項目について考える。
<感染予防の技術>	I	<ul style="list-style-type: none"> ・スタンダードプリコーション(標準予防策)に基づく手洗いを実施する。

		・使用した物品の片付けを、実習病棟のきまりに沿って行う。
<安全管理の技術>	Ⅱ	・患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整える。
<安楽確保の技術>	Ⅱ	・患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる

8. 提出物一覧

「記録用紙一覧」(別紙)を参照。

9. 事前学習・準備について

- * 基礎看護実習 I での学びを振り返り、看護者としての自己を客観的に見つめることから、本実習に向けての自己の課題・目標を明確にする。
- * 実習病棟の特徴をふまえて、診療科に関係する形態機能学・病態生理治療論、看護を学習する。
- * 自己の看護技術が患者の安全・安楽につながるため、看護技術練習を積極的に行う。

授 業 概 要

科目名	成人看護概論	担当者	橋本恵利子 保健師	年次	1	単 位 時 間	30時間 ／1単位
学 修 内 容	本単元では成人の特徴と成人看護の特徴を学ぶ。主には、成人という対象の身体的・心理社会的特徴の理解と成人期にある人への看護に有用な考え方・目的について、グループワークや個人ワークなどを用いて学ぶ。成人看護の目的である地域行政における保健指導の視点も含めて、健康の維持・増進、疾病予防に向けた看護についての理解を深めていく。また、成人期に特徴的な健康障害への影響について理解する。更に成人を看護するうえでの重要な基本的アプローチについての理論を学ぶ。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学における各発達段階の特徴を理解する。 2. 成人期における身体的・心理的・社会的特徴を理論と関連付けて理解を深める。 3. 健康の維持・増進、疾病予防に向けた看護について理解する。 4. 成人期に特徴的な健康障害について理解を深める。 5. 成人を看護するときの基本的アプローチについて理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1,2回：成人期にある対象の理解	[橋本]				講義	
	第3～7回：成人期にみられる健康問題	[橋本]				講義・グループワーク	
	第8～12回：成人看護に有用な理論	[橋本]				講義	
	第13,14回：成人期にある人への保健活動の実際	[保健師]				講義	
	第15回：試験	[橋本]					
成 績 評 価	<p>・方法 筆記試験と夏休みの課題 試験の点数配分は、筆記試験80点、夏休み課題レポート10点、夏休みインタビュー10点 合計100点</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題</p> <p>・留意点 夏季休暇には本単元で扱う内容についての課題を出します(評価対象になります)。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト ・安酸史子ほか編集：ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論，メディカ出版。</p> <p>・必要物品</p>						
参 考 文 献							

授 業 概 要

科 目 名	老年看護概論Ⅰ	担 当 者	竹田直子 金子秀子 保健師	年 次	1	時 間 単 位	30時間／1単 位
学 修 内 容	老年期にある人の身体的・心理的・社会的な変化を理解し、高齢者の生活の現状を、高齢者を取り巻く社会の視点を通して理解していく。						
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の加齢に伴う身体的・心理的・社会的な変化の特徴を理解する。 2. これまで生きてきた背景を理解し、高齢者の生活と健康について理解する。 3. 高齢者をとりまく社会の変化と、高齢者と家族のつながりを理解する。 4. 保健医療と福祉制度に関する概要について理解する。 						
授 業 計 画	授業テーマ					方法（形成評価等を含む）	
第 1回	老年者を知る			竹田	講義		
第 2回	老年期の発達と成熟			竹田	講義		
第 3回	}	老年期の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と、 高齢者におこりやすい健康障害			竹田	講義・個人ワーク 講義・グループワーク	
第 4回					竹田		
第 5回					竹田		
第 6回	高齢者疑似体験			小林	校内実習		
第 7回	高齢者の生活と健康			小林	講義		
第 8回	高齢社会における保健医療福祉 (part1) 高齢者と家族の機能、保健医療福祉制度の変遷			金子	講義		
第 9回	高齢社会における保健医療福祉 (part2) 介護保険制度の整備、高齢者医療のしくみ			金子	講義		
第 10回	高齢者の権利擁護 高齢者虐待、身体拘束、権利擁護のための制度			金子	講義		
第 11回	高齢者におけるセクシュアリティ			金子	講義、グループワーク		
第 12回	地域における老人保健医療と介護保険の現状			保健師			
第 13回	老年看護の特徴(自立支援・理論)			竹田	講義		
第 14回	老年看護の役割			竹田	グループワーク		
第 15回	試験 / グループワークの発表			竹田	発表会		
成 績 評 価	<p>・方法 竹田:筆記試験(42点) 後半グループワークの参加姿勢と成果物(10点) 小林:筆記試験(8点) 金子:筆記試験(40点)</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 「高齢者のすごいところを紹介します」のテーマでレポート作成。方法は①高齢者へのインタビュー ②新聞記事等から見つける どちらでも可</p> <p>・留意点 第6回は動きやすい服装で参加 高齢者に関する日々のニュースや報道に関心を持つ</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会</p> <p>・必要物品 第6回時に雑誌や新聞、財布とお金、携帯電話 グループワーク時に、学内の文房具以外が必要なら各自で用意</p>						
参 考 文 献	<p>系統看護学講座 専門基礎「解剖生理学」 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学の各系統 医学書院 ナーシンググラフィカ「高齢者の健康と障害」 南江堂</p>						

授 業 概 要

科 目 名	母性看護概論Ⅰ	担 当 者	伊藤みどり 草野恵子 保健師	年 次	1	時 間 単 位	25時間 1単位
学 修 内 容	<p><母性看護の基盤となる概念と母性を取り巻く環境の理解> 母性看護学の基盤となる概念について理解し、母性を取り巻く環境について家族や地域、文化社会の視点で理解していく。現代社会における様々な母性に関する問題を、自分達の問題として捉え、母性を取り巻く環境を理解する。また、母性看護における倫理について、母性のライフスタイルの変化や医療技術の進歩ということ踏まえ考える。これらのことを通して、母性看護の在り方について理解していく。</p>						
到 達 目 標	<p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性の多様な捉え方や、現代女性の生き方、リプロダクティブヘルス・ライツの考え方など、母性の基盤となる概念について理解する。 2. 母性を取り巻く環境について、家族、地域、文化・社会の視点で理解し、現代社会における母性に関する問題について考える。 3. 地域における母子保健活動の実際を知り、看護の重要性を理解する。 4. 生殖医療を通して母性看護と倫理について考える。 						
授 業 計 画	授業テーマ						方法（形成評価等を含む）
	第1回 母性看護ガイダンス 母性とは			伊藤	事前課題の提出(プロジェクト学習)		
	第2回 母性看護の基盤となる概念			伊藤	* 母性を取り巻く環境についてはプロジェクト学習という学習方法で学んでいく。		
	第3回 母性看護の歴史			伊藤	詳細は授業時に説明する。		
	第4回・5回 母性を取り巻く環境①② グループワーク			伊藤			
	第6回・7回・8回 母性を取り巻く環境③④⑤ 発表			伊藤	* グループワークでまとめたことを他者に伝えるように発表する。一人1回以上は質問意見として発言する。		
	第9回 地域における助産師の活動 ～地域母子保健の中の助産所の役割～		(くさの助産院)	草野	* 所感の記入		
	第10回 地域における母子保健活動 ～保健センターにおける母子保健活動～			保健師	* 所感の記入		
	第11回 母性を取り巻く環境 まとめ (母子保健統計、法律を含む)			伊藤			
	第12回 母性看護と倫理 母性看護の目的			伊藤	* 所感の記入		
	第13回 学科試験						
成 績 評 価	<p>・方法 ①事前課題(5点) ②グループワークの取組み(5点) ③グループワークのまとめ(5点) ④凝縮ポートフォリオ(5点) ⑤筆記試験(80点) 授業の取組み姿勢</p> <p>・基準 本校の基準に沿って評価する。</p>						
事 前 課 題 ・ 留 意 点	<p>・事前課題 事前学習として夏休みに課題があります。内容は、「母性に関する社会問題について関心をもったテーマについての資料を集める」です。詳しくは事前にお知らせします。</p> <p>・留意点 日頃から母性に関する社会問題に関心を持ち、新聞記事などを集めておいてください。初めて学ぶ母性看護学です。興味関心を持ち、考えることを大事にしてほしいと思います。</p>						
テ キ ス ト ・ 必 要 物 品	<p>・テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 森恵美他著:系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学(1) 母性看護学概論, 医学書院 2. 厚生統計協会:国民衛生の動向, 厚生統計協会 <p>・必要物品 20Pくらいのポケット式クリアファイル</p>						
参 考 文 献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 吉沢豊予子他編著:女性の看護学, メヂカルフレンド社 2. 新道幸恵編著:母性看護概論 母性保健/女性のライフサイクルと母性看護, メヂカルフレンド社 3. 村本淳子他著:ウィメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護, ヌーヴェルヒロカワ 4. 高橋真理他著:ウィメンズヘルスナーシング概論 女性の生涯発達と看護, ヌーヴェルヒロカワ 						